

年度	2025
講義コード	3990002101
講義名称	芸術の世界
代表ナンバリングコード	OK11L0101
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	桜花学園大学 全学部・学科
必須/選択	選択必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 石山 英明	教育保育学部国際教養こども学科
専任教員	基村 昌代	教育保育学部教育保育学科
専任教員	田端 智美	教育保育学部国際教養こども学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. 高い教養に資する知識・理解	◎
2. 課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能	
3. 価値観・態度・志向性	○
4. 統合的な学習経験と創造的思考力	

授業概要と方法	本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本授業では、音楽・美術等、芸術に関して多角的に幅広く講義し「芸術とはなにか」を追求する。芸術の細かな知識を身につけるのではなく、世界共通の文化として概略的に理解・経験する。幅広い知識、高い教養、豊かな人間性をそなえるべく、深い真理の探究ことを目標とし学修する。音楽作品と美術作品を様々な形式で鑑賞し、講義と併せて授業を展開する。
授業の到達目標	①芸術とは何かを自分なりに理解できるようになること。【DP1 高い教養に資する知識・理解】 ②芸術を実際に体感・鑑賞し、芸術に対する理解を深める。【DP3 価値観・態度・志向性】 ③芸術を鑑賞する力や方法について考察し、身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)	美術館・音楽会等に参加して芸術鑑賞を自らすすんで行うこと。
フィードバックの方法	課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。
評価方法	レポート評価(50%)、毎回の授業の終わりのリフレクション等(省察・振り返り：ミニツトペーパー等を記述)への対応(30%)、授業への参加態度(20%)を対象として総合評価を行います。
教科書	適宜プリントを配布します。
参考図書	授業内で適宜紹介します。
その他(学生へのアドバイス、連絡手段等)	「芸術」は幅の広い概念です。普段から「芸術」に興味を持って、自らの幅を広げましょう。連絡はisiyama@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

授業計画表

回数	内容
第1回	ガイダンス・オリエンテーション(基村・田端・石山)

第2回	内容 総合芸術について（基村）
第3回	内容 オペラ「カルメン」からみる女性像（基村）
第4回	内容 ミュージカル「サウンドオブミュージック」が伝える様々な愛（前半）（基村）
第5回	内容 ミュージカル「サウンドオブミュージック」が伝える様々な愛（後半・まとめ） （基村）
第6回	内容 モナリザはだれ？レオナルド・ダ・ヴィンチを中心に（田端）
第7回	内容 ピカソは本当に上手なの？ピカソを中心に（田端）
第8回	内容 絵と会話してみよう！子どもの美術鑑賞を中心に（田端）
第9回	内容 音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう①（バロック・古典派①）（石山）
第10回	内容 音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう②（古典派②ロマン派①）（石山）
第11回	内容 音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう③（ロマン派②・近現代）（石山）
第12回	内容 音楽会・又は音楽を楽しむ人々と音楽にこだわる芸術家（石山）
第13回	内容 美術館に行ってみよう（美術館での鑑賞について）（田端）
第14回	内容 美術館に行ってみよう（絵と会話してみよう実践）（田端）
第15回	内容 まとめ・レポート提出（基村・田端・石山）
第16回	内容 なし

年度	2025
講義コード	3110003002
講義名称	子ども家庭支援論
代表ナンバリングコード	OH22S0001
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 教育保育学科
必須/選択	必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 武藤 直子	教育保育学部教育保育学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. 高い学修意欲や永続的な自己開発意欲を踏まえて、自主的・主体的に学び活動する力を身につけている。	
2. 豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル等を踏まえて、他者と協力・協同して学び合う力を身につけている。	
3. 教育・保育に関する課題を発見・理解するために必要な、豊かな教養、専門的な知識・技術を身につけている。	◎
4. 教育・保育に関する課題を分析・解決する力として、必要な情報を収集・選択・活用する思考力、判断力や、的確に他者へ伝える表現力を身につけている。	○

授業概要と方法	具体的な事例検討を行い、子育て家庭の支援の在り方を学び理解を深め実践力を高めていく（AL）。子育て家庭を取り巻く様々な問題や課題を抱えている子育て家庭の現状把握と支援策を学びながら、保育所や地域の子育て家庭のニーズや社会的課題を踏まえた支援ができるよう理解を深めていく。
授業の到達目標	①子育て家庭を取り巻く現状を把握し、子ども家庭支援の意義と保育者の役割について理解する（DP）。②子育て家庭の支援体制について理解する（DP）。③子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と保育所や地域との連携について理解する（DP）。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	子どもを取り巻く状況に関心を持ち、子育て家庭の実態と課題を把握し、子育て支援に関連する専門職として必要な知識について自らの学びを確認しながら、授業内容を幅広い知識をもって学ぶようにする。予習復習をして、教科書に記された大切な用語等を理解し覚えておくこと（10時間）。居住地の子育て家庭の状況や支援対策を知っておくこと。子育て支援センター等に出向き、親子のかかわり方を観察したり、保護者の子育て観や子育ての悩みを聞き、子育て支援についての学びを深めること（12時間）。
フィードバックの方法	毎回の授業終了時に、授業ノートに学習内容、感想、質問等を記載し、提出する。
評価方法	筆記試験（60%）、授業への参加態度・レポート・提出物（40%）を総合的に判断する。ルーブリックに基づき評価を行う。
教科書	学ぶ・わかる・みえる 保育と子ども家庭支援論 第2版（編）石動瑞代（みらい）
参考図書	保育所保育指針解説、 幼稚園教育要領解説、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	新聞等の報道による子育て家庭に関連した記事に関心を持ち、子育て家庭の現状をより理解するよう努めましょう。自身のワークライフバランスを考えた時にどのような支援が必要か考えてみましょう。 連絡はメールで行います。研究室7402。

授業計画表

第1回	内容 授業概要及び評価方法等の説明、子ども家庭支援とは
第2回	内容 子どもと家庭を取り巻く環境
第3回	内容 保育者が実践する子ども家庭支援①基本的な考え方・視点

第4回	内容 保育者が実践する子ども家庭支援②保育者の専門性を生かした支援
第5回	内容 子育て家庭を支える法・制度・社会資源
第6回	内容 保育者に求められる基本的態度・技術
第7回	内容 保育者が行う子ども家庭支援の実際①保育所の特性
第8回	内容 保育者が行う子ども家庭支援の実際②具体的な保育場面
第9回	内容 地域の子育て家庭への支援
第10回	内容 さまざまな子ども家庭の理解と支援
第11回	内容 不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援（保護者のSOSとしての不適切な養育環境への気づき）
第12回	内容 不適切な養育環境の子どもやその家族への支援（不適切な養育環境の子どもやその家庭における支援の展開）
第13回	内容 発達障がい児等の理解と家庭への支援
第14回	内容 子どもの貧困の理解と家庭への支援
第15回	内容 ソーシャルワーク・小学校との接続
第16回	内容 定期試験

年度	2025
講義コード	3110002201
講義名称	乳児保育Ⅰ（A・Bクラス）
代表ナンバリングコード	OH22S0208
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 教育保育学科
必須/選択	必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 武藤 直子	教育保育学部教育保育学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 高い学修意欲や永続的な自己開発意欲を踏まえて、自主的・主体的に学び活動する力を身につけている。	
2. 豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル等を踏まえて、他者と協力・協同して学び合う力を身につけている。	
3. 教育・保育に関する課題を発見・理解するために必要な、豊かな教養、専門的な知識・技術を身につけている。	◎
4. 教育・保育に関する課題を分析・解決する力として、必要な情報を収集・選択・活用する思考力、判断力や、的確に他者へ伝える表現力を身につけている。	○

授業概要と方法	授業担当者の保育現場での経験を活かし、3歳未満児の保育について、事例を示しながら基礎的な知識を習得させ、実践力を高める学びにつながるようにする。3歳未満児の子どもの気持ちを受け止め理解するためには保育者としての専門性と感性が必要となる。その基礎となる乳児保育の意義、理念、内容、方法、子育てに関する専門的知識を講義やグループ学習、事例検討のアクティブラーニングで学ぶ（AL）。手遊びや歌遊びなど乳児保育の実践に役立つ技術を演習で習得できるようにする（AL）。
授業の到達目標	①乳児保育の意義や現状を踏まえ、乳児保育に必要な知識や技術を習得し、乳幼児理解や保護者支援についての理解を深める（DP）。 ②3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育の内容と生活の流れ、保育所、乳児院など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題を理解する（DP）。③乳児保育のために必要な実践力を身につける（DP）。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	乳児保育の基礎を理解するためには積極的に乳幼児とのかかわりを増やし、座学での学びを実体験で確認していくことが大切であるため、ボランティアや子育て支援センターでの観察や関わりの機会を増やしていくことを推奨する。また、日常的に以下のことを自主的に心がけ、乳児保育の学びを深める。3歳未満児の発達の理解を深めるために乳幼児との接触の機会を積極的に作る。乳児の生活に必要な環境、用具やおもちゃについて関心を持つようにする。
フィードバックの方法	授業終了時に授業ノートに学習した内容、感想や質問を記載し、提出する。
評価方法	筆記試験（60%）、授業への参加態度・授業ノート・レポート・提出物（40%）。評価基準はルーブリックに基づいて行う。
教科書	「やさしい乳児保育」神蔵幸子、金允貞編著（青踏社）・保育所保育指針解説平成30年3月厚生労働省編（フレーベル）
参考図書	適宜授業時に紹介
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	授業の空き時間や長期休暇等を利用し、ボランティアや乳幼児と触れ合う機会を多く作り乳児の理解に努めてほしいと考えます。乳児保育に必要な手遊び・歌あそびを覚え、手作りおもちゃを作るなど、保育実践に役立つ技術の習得や教材研究も積極的に行ってください。連絡手段はメールで行います。研究室7402。

授業計画表

第1回	内容 授業概要及び評価方法等の説明 乳児保育の意義
第2回	内容 乳児保育の変遷と現状
第3回	内容 保育園における乳児保育

第4回	内容 0歳児の保育（6カ月未満までの機能の発達と援助、家庭との連携）
第5回	内容 0歳児の保育（6カ月から1歳未満までの機能の発達と援助、家庭との連携）
第6回	内容 1歳児の保育（発育・発達の特徴）
第7回	内容 1歳児の保育（生活・遊びの援助と環境の工夫）
第8回	内容 2歳児の保育（機能の発達、生活・遊びの援助と環境の工夫）
第9回	内容 乳児保育における計画（0歳児の指導計画の作成）
第10回	内容 乳児保育の環境（人的環境）
第11回	内容 乳児保育の環境（物的環境、自然環境）
第12回	内容 乳児保育における保健活動（感染症と対策）
第13回	内容 乳児保育における保健活動（子どもの発達と起こりやすい事故）
第14回	内容 乳児保育における保健活動（事故防止と安全対策）
第15回	内容 まとめ
第16回	内容 定期試験

年度	2025
講義コード	3110004101
講義名称	保育内容総論（Aクラス）
代表ナンバリングコード	OH11S0201
講義区分	演習
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 教育保育学科
必須/選択	必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 平松 章予	教育保育学部教育保育学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 高い学修意欲や永続的な自己開発意欲を踏まえて、自主的・主体的に学び活動する力を身につけている。	
2. 豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル等を踏まえて、他者と協力・協同して学び合う力を身につけている。	
3. 教育・保育に関する課題を発見・理解するために必要な、豊かな教養、専門的な知識・技術を身につけている。	◎
4. 教育・保育に関する課題を分析・解決する力として、必要な情報を収集・選択・活用する思考力、判断力や、的確に他者へ伝える表現力を身につけている。	○

授業概要と方法	3法を知り、幼児教育・保育の基本を学び、各年齢及び一人一人に応じた保育内容・指導計画、園と家庭や地域との連携、地域における子育て支援などについて理解する。また、保育内容の変遷、諸外国の保育内容についても学ぶ。さらに、少子化の進行、子どもの生活や遊びの変容による保育ニーズの高まりや今日の課題を考えた保育のあり方について、仲間と話し合い、発表・報告をする。
授業の到達目標	○到達目標1 幼児教育・保育の基本を習得し、各年齢の発達・保育内容・保育の計画について理解する。 【DP】 ○到達目標2 一人一人の子どもの理解・遊び・環境・保育者の関わりについて、子どもの姿をイメージしながら考えることができる。【DP】 ○到達目標3 自分の考えを表したり他者の考えを聞いたりして、自ら学び仲間と一緒に学び合う。【DP】
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	・授業計画を確認して授業に参加する。 （30分） ・授業内容について教科書を見て予習する。 （1時間30分） ・授業内容を復習する。 （2時間）
フィードバックの方法	・課題については、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案を紹介する。 ・毎回の授業の振り返りについてのコメントは、必要に応じて口頭で伝達する。
評価方法	授業への参加・学習態度・学びの振り返り30%、課題の提出30%、筆記試験40%にて評価する。
教科書	津金美智子・新井美保子編 新時代の保育双書『子どもの主体性を育む保育内容総論』（株）みらい
参考図書	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	・免許・資格を取る学生は、休まず履修する。 ・ボランティア活動等への積極的参加をし、子どもとのかかわりをもつ。 ・周りの環境（人・物・事・自然など）に関心をもち感性を磨くことに努める。 ・連絡先は、授業で開示する。

授業計画表

	内容
第1回	オリエンテーション・授業の進め方・子育てを巡る動向と課題<グループディスカッション>

第2回	内容 子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容（社会環境の変化・保育内容の基準）
第3回	内容 幼児教育・保育の基本（環境を通して行う保育、育みたい資質・能力、10の姿の理解等）
第4回	内容 遊びと保育内容（保育内容5領域の総合性）＜グループディスカッション＞
第5回	内容 子ども理解①（乳児保育に関わる保育内容）
第6回	内容 子ども理解②（1歳以上3歳未満児の保育内容）
第7回	内容 子ども理解③（3歳児の保育内容）
第8回	内容 子ども理解④（4歳児の保育内容）
第9回	内容 子ども理解⑤（5歳児の保育内容）
第10回	内容 家庭・地域との連携、健康及び安全、子育て支援
第11回	内容 保育の計画①（教育課程・全体的計画とカリキュラムマネジメント）
第12回	内容 保育の計画②（指導計画と保育の展開、保育の記録と評価）
第13回	内容 保育の計画③（記録の実際）
第14回	内容 我が国における保育内容の変遷（戦前・戦後、現代の課題）
第15回	内容 諸外国の保育内容 ＜演習＞世界の幼児教育・保育内容の調査発表 ★授業全体まとめ
第16回	内容 筆記試験

年度	2025
講義コード	3110000201
講義名称	保育者論
代表ナンバリングコード	OH11S0002
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 教育保育学科
必須/選択	必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 上村 晶	教育保育学部教育保育学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 高い学修意欲や持続的な自己開発意欲を踏まえて、自主的・主体的に学び活動する力を身につけている。	
2. 豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル等を踏まえて、他者と協力・協同して学び合う力を身につけている。	
3. 教育・保育に関する課題を発見・理解するために必要な、豊かな教養、専門的な知識・技術を身につけている。	◎
4. 教育・保育に関する課題を分析・解決する力として、必要な情報を収集・選択・活用する思考力、判断力や、的確に他者へ伝える表現力を身につけている。	○

授業概要と方法	本科目は、現代社会における保育者の在り方について理解を深める。特に、幼稚園教諭・保育教諭・保育士など保育者の役割が変化しつつあることを踏まえながら、保育者としての制度的位置づけ、職務内容、資質、専門性を、実践現場に根差した事例等を交えながら理解するようにする。【AL】
授業の到達目標	①日本における学校教育や教職の社会的意義及び今日的課題について理解し、幼稚園教諭・保育教諭・保育士としての役割や資質能力・多様な職務について理解する（HDP3）。 ②教師・保育者の全体的な職務内容を把握すると同時に、教師・保育者としての資質や専門性・義務や職業倫理について理解する（HDP3）。 ③地域・家庭・社会的ニーズを踏まえた上で、多様な人材や専門家との協働・連携を通じて組織的に諸課題に対応する必要性について理解する（HDP3）。 ④保育者としての資質や専門性を理解する中で、現代に求められる保育者像を明確化する（HDP4）。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	毎回の授業で、課題（次回のテーマ）を発表します。次回の授業までに、事前にテーマについて調べたり考えたりするなどを通して、自身の考えを明確にして授業に臨んでください。
フィードバックの方法	各回のコメント・質問に関しては、次回授業時の冒頭で口頭回答する。また、最終試験に関しては、試験終了後に正誤に関してその場で解説する。
評価方法	最終筆記試験（55%）・授業への取組（各回FB：45%）で総合評価を行う。
教科書	中坪史典・請川滋大(監修)・上村晶(編) 「新・保育シリーズ 保育者論」 学術図書出版社 2024年 ISBN：978-4-7806-1302-5
参考図書	平成29年告示版 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	1年生の段階で「どのような保育者が社会から求められているのか」「どのような保育者を目指したいか」を思い描くことは、今後の皆さんの道標となります。夢や理想を描きつつ、保育現場で必要な力量とは何かを考えながら、常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください（OH等は初回に開示します）。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション、保育とは、保育者とは
第2回	内容 現代における保育者の社会的意義

第3回	内容 保育者の制度的な位置づけと倫理
第4回	内容 指針・要領にみる保育者の役割
第5回	内容 保育環境の意義と保育者の役割
第6回	内容 子どもの主体的な遊びを支える保育者の役割
第7回	内容 子どもの権利を保障する保育者の役割
第8回	内容 保育者の職務内容（1）：指導計画をデザイン・評価する保育者
第9回	内容 保育者の職務内容（2）：家庭や地域と連携・協働する保育者
第10回	内容 保育者の職務内容（3）：多様性と包括性を意識した保育者
第11回	内容 国際的な幼児教育・保育の現状
第12回	内容 保育者の連携と協働
第13回	内容 保育者の専門職的成長
第14回	内容 保育者に求められる資質や専門性
第15回	内容 私の目指す保育者とは（まとめ）
第16回	内容 定期試験

年度	2025
講義コード	3110013601
講義名称	教育実習Ⅲ
代表ナンバリングコード	OH32S1001
講義区分	実習
基準単位数	3.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 教育保育学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 上村 晶	教育保育学部教育保育学科
専任教員	浅野 卓司	教育保育学部教育保育学科
専任教員	平松 章予	教育保育学部教育保育学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 高い学修意欲や永続的な自己開発意欲を踏まえて、自主的・主体的に学び活動する力を身につけている。	◎
2. 豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル等を踏まえて、他者と協力・協同して学び合う力を身につけている。	
3. 教育・保育に関する課題を発見・理解するために必要な、豊かな教養、専門的な知識・技術を身につけている。	
4. 教育・保育に関する課題を分析・解決する力として、必要な情報を収集・選択・活用する思考力、判断力や、的確に他者へ伝える表現力を身につけている。	○

授業概要と方法	<p>本科目は、教育実習Ⅰの学びや体験を活かして、自ら課題を持ちながら幼児と関わりを深める中で、幼稚園教育の実際を体験的に学ぶ。また、教師としての職業倫理の理解をさらに深め、応用的・発展的な知識・技術・態度について体験的に学習すると同時に、教師としての実践的指導力の基礎を培う。同様に、修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、教師としての専門性や資質を理解し、自らの保育観・教育観を持てるようになる。</p> <p>【AL】</p>
授業の到達目標	<p>①幼稚園の役割や機能や、施設・設備・環境構成等を踏まえた幼稚園教育の在り方について、実際に即して学ぶ(DP)。</p> <p>②発達に応じた幼児の実際の姿を通して幼児理解を深める(DP)。</p> <p>③観察、参加、指導実習(部分・総合)等を通して、指導計画の立案や実践の展開・評価などの幼稚園教育の実際を体験的に学ぶ(DP)。</p> <p>④幼稚園教諭の職務内容について実際に即して学ぶ(DP)。</p> <p>⑤地域の幼児教育センターとしての幼稚園の役割について、実際に即して学ぶことを通して、幼稚園と家庭・地域等との関係についての理解を深める(DP)。</p> <p>⑥幼小接続の在り方や、特別な支援を必要とする幼児への指導の実際、教育課程に係る教育時間終了後などに行う教育活動(預かり保育)の実際について、理解を深める(DP)。</p> <p>⑦幼児の教育・保育に関する自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める(DP)。</p>
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)	<p>①実習の実施に先立って、教育実習指導Ⅲで学んだことをよく確認すること。</p> <p>②事前訪問時に実習園からいただいた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること。</p>
フィードバックの方法	フィードバックの方法：実習園の評価等は、2月に教育・保育職支援センターにて、個別面談による口頭開示を行う。
評価方法	実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他(実習への意欲・実習状況など)10%を総合して評価する。
教科書	教育実習Ⅲの手引き・実習ハンドブック
参考図書	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成29年告示版)
その他(学生)	<p>①本実習を行うに当たり、原則、当該年度の「教育実習指導Ⅲ」を履修することが条件となります(未履修者は本実習に参加することはできません)。</p> <p>②実習期間中の遅刻・早退・欠席等については、事前にその旨を申し出、許可を受けること。特に欠席の場合は大学・実習園へ必ず電話連絡すること(大学の受付は教務課実習担当：0562-85-2345)。</p>

へのアドバイス、連絡手段等)

- 【留意事項】 実習開始までに、以下の科目を履修または単位修得していることが受講条件となりますので、ご注意ください。
- ◆領域に関する専門的事項：幼児と健康・幼児と人間関係・幼児と環境・幼児と言葉・幼児と表現から3単位以上
- ◆保育内容の指導法及び教育の基礎的理解に関する科目等：保育者論・保育内容総論・教育原理・子ども理解の理論と方法・教育の方法・教育心理学・保育内容指導法（人間関係）・保育内容指導法（環境）・保育内容指導法（言葉）・保育内容指導法（表現）から12単位以上
- ◆教育実習関連科目：教育実習指導Ⅰ・教育実習Ⅰの各1単位を履修していること

授業計画表

内容

実習実施期間：2025年11月17日（月）～12月5日（金）3週間
事前訪問期間：10月6日（月）～10月24日（金）
巡回教員研究室訪問期間：10月27日（月）～11月6日（木）

第1回

【実習概要】 幼稚園における120時間（計3週間）の実習を通して、観察・参加・指導実習（部分・総合）を体験する。①観察・参加を通しては、幼稚園での幼児の姿、幼稚園教諭の教育や園務の実際、家庭や地域との関係、施設・設備・環境構成等の幼稚園教育の在り方について、常に自己課題を持ちながら、体験を通して理解する。また、幼小の架け橋についても理解を深める。

年度	2025
講義コード	3110013001
講義名称	教育実習指導Ⅲ
代表ナンバリングコード	OH32S1002
講義区分	演習
基準単位数	1.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 教育保育学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 上村 晶	教育保育学部教育保育学科
専任教員	浅野 卓司	教育保育学部教育保育学科
専任教員	平松 章予	教育保育学部教育保育学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. 高い学修意欲や永続的な自己開発意欲を踏まえて、自主的・主体的に学び活動する力を身につけている。	◎
2. 豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル等を踏まえて、他者と協力・協同して学び合う力を身につけている。	
3. 教育・保育に関する課題を発見・理解するために必要な、豊かな教養、専門的な知識・技術を身につけている。	
4. 教育・保育に関する課題を分析・解決する力として、必要な情報を収集・選択・活用する思考力、判断力や、的確に他者へ伝える表現力を身につけている。	○

授業概要と方法	本科目は、幼稚園教育実習における実習生の学びの深め方について、具体的に検討する。また、実習現場で求められる指導計画や実践的指導力などを具体的に検討・共有することを通じて、幼稚園教育実習に必要な知識・技能などを体験的に学ぶことができるようにする。加えて、教育実習Ⅲのための事前事後指導としての本授業では、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に活かしていく。【AL】
授業の到達目標	①幼稚園における教育実習の意義や目標を理解する（DP）。 ②実習の心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む（DP）。 ③観察実習、参加実習、責任実習の内容について理解し、準備・実践・振り返りに意欲的に取り組む（DP）。 ④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学習や就職に活かしていく（DP）
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	1・2年の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのかの自己課題を明確にもてるよう、自ら進んで授業外学修をすること。毎回の予習課題に取り組み、事前学修を深めておくこと。
フィードバックの方法	指導案発表のフィードバックに関しては、発表時に教員からも口頭で講評を行う。また、各回の学びに関する質問については、次回の授業時に口頭（もしくはMoodle）で補足説明・回答をする。
評価方法	予習復習課題（4×8回＝32%）・各回のFB（5×8回＝40%）、指導案発表（20%）、授業への意欲（8%）を総合的に評価する。
教科書	教育実習Ⅲの手引き、実習ハンドブック
参考図書	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書（平成29年告示版）
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	・本授業は、幼稚園教諭免許状の取得を目指す全ての学生が履修する必要があります。 ・欠欠以外の理由で事前指導を3回以上欠席した学生や、正当な理由なく無断で授業を欠席・遅刻した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合は、その前後に必ず、教務課または授業担当教員に直接連絡をしてください（要課題）。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。 ・下記8回の授業の他、教育実習Ⅲを履修する学生は、①実習園発表や事前訪問に関するガイダンス（誓約書・個人票作成を含む：7月中旬）、②実習評価票に基づく個別面談、などが授業外にありますので参加してください。

授業計画表

第1回	内容 教育実習Ⅲの課題と幼稚園における教育の理解 -幼稚園教育の実際-
第2回	内容 教育実習における指導計画の立て方
第3回	内容 学年別の指導案の作成と発表（1）年少児
第4回	内容 学年別の指導案の作成と発表（2）年中児
第5回	内容 学年別の指導案の作成と発表（3）年長児
第6回	内容 教育実習に向けての幼児理解と記録 - 日誌の書き方 -
第7回	内容 教育実習直前指導（教師としての心構えや教職倫理）
第8回	内容 教育実習事後指導 - 学びの振り返りと自己課題の明確化 -

年度	2025
講義コード	3110000801
講義名称	保育カリキュラム論
代表ナンバリングコード	OH32S0201
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 教育保育学科
必須/選択	必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 上村 晶	教育保育学部教育保育学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 高い学修意欲や永続的な自己開発意欲を踏まえて、自主的・主体的に学び活動する力を身につけている。	
2. 豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル等を踏まえて、他者と協力・協同して学び合う力を身につけている。	
3. 教育・保育に関する課題を発見・理解するために必要な、豊かな教養、専門的な知識・技術を身につけている。	◎
4. 教育・保育に関する課題を分析・解決する力として、必要な情報を収集・選択・活用する思考力、判断力や、的確に他者へ伝える表現力を身につけている。	○

授業概要と方法	本科目は、幼児教育及び保育現場における教育課程や、教育・保育の内容に関する全体的な計画の意義を理解した上で、園の指導計画と実践の系統性・往還性を認識しながら、指導計画と評価の在り方について理解を深める。 また、学生自身が幼児教育・保育のグランドデザインを編成する中で、カリキュラム・マネジメントについて理解を深める。【AL】
授業の到達目標	①幼児教育・保育カリキュラムの意義、教育課程及び教育・保育に関する全体的な計画の編成や指導計画の役割や機能について理解する（HDP3）。 ②子どもの発達過程を踏まえた教育課程や指導計画の意義、作成方法について理解する（HDP4）。 ③さまざまな教育・保育の実際と内容、記録の在り方・評価の意義と方法を踏まえ、カリキュラム・マネジメントやカリキュラム評価の基本的な考え方を理解する（HDP3）。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	毎回の授業で、課題（テキスト予習及び次回のテーマ）を発表します。次回の授業までに、事前に教科書を熟読するなどして、テーマについて自身の考えを明確にして授業に臨んでください。また、理想園課題に関しては、授業での学びを生かしながら作成し、発表・提出に備えてください。
フィードバックの方法	各回のFB等における質問に関しては、次回授業時の冒頭で口頭回答する。また、理想園に関しては第15回授業時に総評すると同時に、最終試験に関しては成績開示後に総合結果と特に留意すべき事項等を解説する。
評価方法	最終筆記試験（45%）、私の理想園（指導計画）ファイル及びプレゼンテーション（25%）、授業への取組（各回FB：30%）で総合評価を行う。
教科書	「保育カリキュラム論 -計画と評価-」（2018）豊田和子・新井美保子編著 建帛社
参考図書	平成29年告示版 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	指導計画の作成は保育現場で必要な力量の1つです。どのような幼児教育や保育をデザインしていきたいかなど、常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください（OH等は初回に開示します）。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション、幼児教育・保育の基本とカリキュラム-カリキュラムの考え方と展望
第2回	内容 幼児教育・保育の実践とカリキュラムの関係 -社会に開かれた教育課程・全体的な計画の意義

第3回	内容 保育所保育指針における全体的な計画と指導計画の基礎理解
第4回	内容 幼稚園教育要領における教育課程及び全体的な計画と指導計画の基礎理解
第5回	内容 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における全体的な計画と指導計画の基礎理解
第6回	内容 子どもの発達理解の長期及び短期指導計画のデザインと実践展開（1）－乳児・3歳未満児
第7回	内容 子どもの発達理解の長期及び短期指導計画のデザインと実践展開（2）－幼児・3歳以上児
第8回	内容 多様な保育・幼児教育の「指導計画」のデザイン（1）－預かり保育・長時間保育等
第9回	内容 多様な保育・幼児教育の「指導計画」のデザイン（2）－保幼小接続カリキュラム
第10回	内容 保育のカリキュラム・マネジメント－PDCA サイクル、記録・反省・評価の意義
第11回	内容 指導計画のデザインと実践展開－長期指導計画と短期指導計画の系統性と往還性
第12回	内容 私の理想園作成（1）－教育及び保育に関する理念・方針・目指す子ども像
第13回	内容 私の理想園作成（2）－教育課程・全体的な計画、教育・保育の内容に関する全体的な計画
第14回	内容 私の理想園発表（1）－グループプレゼンテーションと質疑応答
第15回	内容 私の理想園発表（2）－全体プレゼンテーションとカリキュラムの評価
第16回	内容 定期試験

年度	2025
講義コード	3110005701
講義名称	国語科教育法
代表ナンバリングコード	OH22S0204
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 教育保育学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 森川 拓也	教育保育学部教育保育学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. 高い学修意欲や永続的な自己開発意欲を踏まえて、自主的・主体的に学び活動する力を身につけている。	
2. 豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル等を踏まえて、他者と協力・協同して学び合う力を身につけている。	
3. 教育・保育に関する課題を発見・理解するために必要な、豊かな教養、専門的な知識・技術を身につけている。	○
4. 教育・保育に関する課題を分析・解決する力として、必要な情報を収集・選択・活用する思考力、判断力や、的確に他者へ伝える表現力を身につけている。	◎

授業概要と方法	この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校で国語の授業を行うための具体的な指導方法を学ぶ機会を具体的に展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援のあり方について実践的に学べるようにする。 小学校における国語科教育の目標・内容のすべてにわたっての基礎を学んだ上で、国語科の授業を担当するための知識・技能・教材研究の方法・学習指導の方法を具体的に学び、習得します。グループ・ワーク、ディスカッション・発表などを数多く行います。【AL】
授業の到達目標	①国語科教育の目標を理解した上で、言葉を使って「話す」「聞く」「書く」「考える」という力を指導するための授業を構想する力を身につける【DP】 ②国語科の授業構想をもとに、子どもに適切に対応しながら授業を展開する実践力を身につける【DP】
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	教材を読んで課題を考えておいたり、参考資料を調べたりすること、またそれぞれで教材研究を行うことなどがあります。さらに授業案の作成も課題になります。
フィードバックの方法	フィードバック：レポート・課題・模擬授業等を適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える レポート内に記入された質問にも適宜答える
評価方法	授業に参加する姿勢・活動（20％） レポート・課題・提出物・発表（40％） 筆記試験（40％）以上を総合して評価します。
教科書	小学校学習指導要領解説 国語編
参考図書	適宜紹介します。
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	国語辞典が必要です。（電子辞書も可） 各回に配付する資料は失くさないようにしてください。 連絡先・手段は授業時に伝えます。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション（現在の現場で求められる国語の力についての理解）
第2回	内容 国語科教育の目標と内容（新学習指導要領の理解）の授業への具体化についての理解

第3回	内容 国語の授業と子どもの学習能力の育成についての理解
第4回	内容 国語の授業の具体例から学ぶ(授業映像の分析・検討)
第5回	内容 教材研究から授業づくりへ① 文学教材をどう読み、どう指導するか(教材研究)【AL】
第6回	内容 教材研究から授業づくりへ② 文学教材をどう読み、どう指導するか(発問検討)【AL】
第7回	内容 教材研究から授業づくりへ③ 文学教材をどう読み、どう指導するか(指導案作成)【AL】
第8回	内容 模擬授業演習① 実践と振り返り【AL】
第9回	内容 教材研究から授業づくりへ④ 説明文教材をどう読み、どう指導するか(教材研究)【AL】
第10回	内容 教材研究から授業づくりへ⑤ 説明文教材をどう読み、どう指導するか(指導案作成)【AL】
第11回	内容 教材研究から授業づくりへ⑥ 「話すこと・聞くこと」をどう指導するか
第12回	内容 教材研究から授業づくりへ⑦ 「書くこと」「言語文化」をどう指導するか
第13回	内容 教材研究から授業づくりへ⑧ 発問検討・指導案作成【AL】
第14回	内容 模擬授業演習② 実践と振り返り【AL】
第15回	内容 まとめ
第16回	内容 筆記試験

年度	2025
講義コード	3110004701
講義名称	国語
代表ナンバリングコード	OH21S0206
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	前期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 教育保育学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 森川 拓也	教育保育学部教育保育学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 高い学修意欲や永続的な自己開発意欲を踏まえて、自主的・主体的に学び活動する力を身につけている。	
2. 豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル等を踏まえて、他者と協力・協同して学び合う力を身につけている。	
3. 教育・保育に関する課題を発見・理解するために必要な、豊かな教養、専門的な知識・技術を身につけている。	◎
4. 教育・保育に関する課題を分析・解決する力として、必要な情報を収集・選択・活用する思考力、判断力や、的確に他者へ伝える表現力を身につけている。	○

授業概要と方法	この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、教育の実践者として必要な基本的な国語力と言語表現力を養う授業を展開する。国語科は「言葉の学習」としての教科であるというこの理解を深め、教材研究を中心に、国語科の授業づくりの基礎を学ぶ。講義形態だが、グループワーク・実習・発表などの活動を積極的に取り入れる。【AL】
授業の到達目標	①国語科教育の本質と意義を理解し、言葉を使って「話す」「聞く」「書く」「考える」という基本的な力を育成する指導のための知識・技能を身につける。【DP】 ②教育の専門職として必要な「国語科の授業」に関する知識・技能を基に、自らの考えを深め、課題を解決し、その結果を他者に的確に表出する力を身につける。【DP】
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	教材を読んで課題を考えておいたり、参考資料を調べたりすること、またそれぞれで教材研究を行うことなどがあります。
評価方法	フィードバック：レポート・課題等を適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える レポート内に記入された質問にも適宜答える 授業に参加する姿勢・活動（20%） レポート・課題・提出物・発表（40%） 筆記試験（40%）以上を総合して評価します。
教科書	小学校学習指導要領解説 国語編
参考図書	適宜紹介します。
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	国語辞典が必要です。（電子辞書も可） 各回に配付する資料は失くさないようにしてください。 連絡先・手段は授業時に伝えます。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション 国語科は「言葉の学習である」ことへの理解
第2回	内容 国語の教材研究の重要性とその方法①（「言葉を学ぶ学習」の観点から）
第3回	内容 国語の教材研究の重要性とその方法②（「主体的・対話的な学習」の観点から）

第4回	内容 国語の教材研究の重要性とその方法③（「思考力・表現力を育む学習」の観点から）
第5回	内容 伝統的な言語文化と日本語文法の基礎と表現についての理解
第6回	内容 言葉を使って「書く」ということの理解と実習
第7回	内容 言葉とイメージ（言葉による表現活動）の理解と実習
第8回	内容 保幼小接続の観点から国語科を考える　まとめ
第9回	内容 筆記試験

年度	2025
講義コード	3110003601
講義名称	幼児と言葉（Aクラス）
代表ナンバリングコード	OH11S0203
講義区分	演習
基準単位数	1.0
講義開講時期	前期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 教育保育学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 森川 拓也	教育保育学部教育保育学科

授業概要と方法	この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、具体的な作業・活動を通して、領域「言葉」を指導する実践力の基となる基礎知識を身につける授業を展開する。その上で、子どもが「言葉」を獲得していくことの重要性と保育者の支援を学ぶ機会とする。
授業の到達目標	①子どもの生活を支える「言葉」の重要性と働きについて理解した上で、言葉を育み、言葉の豊かな使い手となるように指導できる知識・技能を身につけ、教材理解ができる。【DP】 ②教育・保育の専門職として求められる「幼児の言葉」に関する知識・技能を基に、自らの考えを深め、課題を解決し、その結果を他者に的確に表出する力を身につけている。【DP】
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	配付資料のふりかえり、事前準備としての資料や指定図書の研究、日常の子どもの言葉の聞き取り・分析等の課題があります。
フィードバックの方法	フィードバック：レポート・課題等を適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える レポート内に記入された質問にも適宜答える
評価方法	各回のふりかえり（20%）授業・演習課題に対する取り組み姿勢（20%）演習課題の内容（20%）定期試験（40%）以上を総合して評価します
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
参考図書	必要に応じて提示します
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	各回到付する資料は失くさないようにしてください。 連絡先・手段は授業時に伝えます。

授業計画表

第1回	内容 なぜ「言葉」を学ぶのか
第2回	内容 乳幼児期の言葉の発達
第3回	内容 幼児にとって「言葉」とは何か
第4回	内容 幼児の言葉から考える
第5回	内容 人とつながるための言葉
第6回	内容 子どもの言葉を育てる保育者・保護者の役割
第7回	内容 子どもの言葉を育てる文化的環境と文化財

第8回

内容

言葉をめぐるいろいろな問題

第9回

内容

定期試験

年度	2025
講義コード	3110005801
講義名称	社会科教育法
代表ナンバリングコード	OH32S0203
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 教育保育学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 松永 康史	教育保育学部教育保育学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. 高い学修意欲や永続的な自己開発意欲を踏まえて、自主的・主体的に学び活動する力を身につけている。	
2. 豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼される社会的モラル等を踏まえて、他者と協力・協同して学び合う力を身につけている。	
3. 教育・保育に関する課題を発見・理解するために必要な、豊かな教養、専門的な知識・技術を身につけている。	○
4. 教育・保育に関する課題を分析・解決する力として、必要な情報を収集・選択・活用する思考力、判断力や、的確に他者へ伝える表現力を身につけている。	◎

授業概要と方法	<p>本授業では、「学習指導要領」等を理解し、学校現場において行う社会科授業の目標、教育内容、指導法について理解を深める。また、先人の実践事例に学び、検討する。</p> <p>本授業では、【担当者の実務経験】元小学校教諭の経験を踏まえ、教材研究や授業実践の分析について具体的な検討を行う。また、指導方法の工夫などを学ぶことができるようにする。学習指導要領を理解したうえで、社会科の授業づくりを検討する。授業づくりにおいては、教材研究、指導計画（単元構想）の検討、学習指導案作りを行う。その際、学習課題の把握、学習課題の追究、学習課題の解決といった問題解決的な学習を想定するとともに、模擬授業を行うことで授業づくりを振り返りながら、実践的な力を養う。【AL】</p>
授業の到達目標	社会科教育の目標、内容、指導計画等を理解し、問題解決的な学習の充実を見据えた教材研究や学習指導案の作成、授業実践の分析を通して、実践的な指導力を身につける【DP】。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	教材研究のため資料を収集すること、読むこと、指導案の作成など課題を指示します。
フィードバックの方法	フィードバック：振り返り用の授業シートに記された質問に対する回答や課題の特徴的な見解や解説は、次回の授業時に紹介する。
評価方法	レポート試験70%、課題及び授業への参加態度30%
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』
参考図書	小学校学習指導要領
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	オフィスアワー木曜昼休み

授業計画表

第1回	<p>内容</p> <p>学習指導要領解説①：オリエンテーション、社会科を学ぶ意義</p>
第2回	<p>内容</p> <p>学習指導要領解説②：社会科教育の目標と内容</p>

第3回	内容 日本における社会科教育の歴史
第4回	内容 社会科教育における授業理論、問題解決的な学習
第5回	内容 授業実践の事例検討①：3学年実践
第6回	内容 授業実践の事例検討②：4学年実践
第7回	内容 授業実践の事例検討③：5年生実践
第8回	内容 授業実践の事例検討④：6年生実践
第9回	内容 学習指導案の作成と内容、作成手順
第10回	内容 学習指導案の作成と模擬授業①：教材研究
第11回	内容 学習指導案の作成と模擬授業②：指導計画・単元構想の検討
第12回	内容 学習指導案の作成と模擬授業③：指導案の検討
第13回	内容 学習指導案の作成と模擬授業④：教育技術とICT活用
第14回	内容 学習指導案の作成と模擬授業⑤：評価
第15回	内容 これからの社会科教育に求められる指導力と課題
第16回	内容 試験（レポート）

年度	2025
講義コード	3110001001
講義名称	道徳教育の指導法
代表ナンバリングコード	OH21S0201
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 教育保育学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 松永 康史	教育保育学部教育保育学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 高い学修意欲や永続的な自己開発意欲を踏まえて、自主的・主体的に学び活動する力を身につけている。	
2. 豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル等を踏まえて、他者と協力・協同して学び合う力を身につけている。	
3. 教育・保育に関する課題を発見・理解するために必要な、豊かな教養、専門的な知識・技術を身につけている。	○
4. 教育・保育に関する課題を分析・解決する力として、必要な情報を収集・選択・活用する思考力、判断力や、的確に他者へ伝える表現力を身につけている。	◎

授業概要と方法	<p>本授業では、元小学校教諭の経験を踏まえ、教材研究や授業実践の分析について具体的な検討を行う。また、指導方法の工夫などを学ぶことができるようにする。</p> <p>本授業では、「学習指導要領」等を理解し、学校現場において行う道徳科の目標、教育内容、指導法について理解を深める。また、児童の道徳性の発達についての知識をもち、道徳科の授業づくりを検討する。授業づくりにおいては、授業実践例の検討や教材研究を行う。その際、「考え、議論する道徳」を想定した授業づくりの力を養う。授業の最初に道徳の内容項目に関する動画を見て、グループディスカッションを行う【AL】。</p>
授業の到達目標	道徳の意義や原理を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と道徳科の目標、内容、指導計画等を理解し、児童の道徳性の発達をふまえた教材研究や授業実践の分析等を通して、授業づくりの力を身につける【DP】。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	道徳資料を読むこと、指導案の作成など課題を指示します。
フィードバックの方法	フィードバック：振り返りシートでの質問・課題の特徴的な見解や解説は、次回の授業時に紹介する。
評価方法	試験80%、課題・授業への参加態度（授業振り返りシート）20%
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』
参考図書	『小学校学習指導要領』、その他適宜連絡します
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	オフィスアワー木曜昼休み

授業計画表

第1回	<p>内容</p> <p>道徳の本質と「考え、議論する」道徳</p>
第2回	<p>内容</p> <p>学習指導要領の理解①：学校の教育活動全体における道徳教育</p>
第3回	<p>内容</p> <p>学習指導要領の理解②：道徳科</p>

第4回	内容 日本における道徳教育の歴史
第5回	内容 子どもの発達と道徳性：コールバーグ等の理論
第6回	内容 道徳教育に関する授業理論
第7回	内容 授業実践の事例検討①：低学年
第8回	内容 授業実践の事例検討②：中学年
第9回	内容 授業実践の事例検討③：高学年
第10回	内容 学習指導案の構成と内容、作成手順
第11回	内容 学習指導案の作成 資料収集と資料分析
第12回	内容 学習指導の多様な展開①：1時間の授業における指導方法の工夫
第13回	内容 学習指導の多様な展開②：ICT活用を含む指導方法の工夫
第14回	内容 道徳教育、道徳科における評価
第15回	内容 これからの道徳教育に求められる実践的指導力と課題
第16回	内容 試験

年度	2025
講義コード	3110008201
講義名称	特別支援教育論（Cクラス）
代表ナンバリングコード	OH22S0301
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 教育保育学科
必須/選択	必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 柏倉 秀克	教育保育学部教育保育学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 高い学修意欲や永続的な自己開発意欲を踏まえて、自主的・主体的に学び活動する力を身につけている。	
2. 豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル等を踏まえて、他者と協力・協同して学び合う力を身につけている。	
3. 教育・保育に関する課題を発見・理解するために必要な、豊かな教養、専門的な知識・技術を身につけている。	◎
4. 教育・保育に関する課題を分析・解決する力として、必要な情報を収集・選択・活用する思考力、判断力や、的確に他者へ伝える表現力を身につけている。	○

授業概要と方法	この授業科目では、元特別支援学校教諭としての経験を踏まえ、障害等により特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒に対する支援方法について具体的な検討を行う。また、特別支援教育を実施するための支援計画・指導計画の作成・活用について体験的に学ぶことができるようにする。特別支援教育について多面から学びを深めるとともに、特別支援教育の理念と歴史、教育課程と指導法、特色ある自立活動、進路指導の概要について理解を深める。
授業の到達目標	①特別な教育的ニーズのある子どもたちに対する教育支援に関する思考力・判断力・表現力を身につける。【DP】②特別支援学校、特別支援学級、通常学級の役割についての知識・技能を身につける。③特別支援教育の教育内容の概要について知識・技能を深めることができる。④特別支援教育における自立活動、地域連携、キャリア教育等について知識・技能を深めることができる。⑤特別支援教育に関する思考力・判断力・表現力を身につける。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	準備学修としては特別支援教育に関する基本文献を各自が予習すること。事後学修としてはボランティア体験など障害児に対し実践的にかかわる体験をできるだけ多く持つことが求められる。
フィードバックの方法	授業の最後にフィードバックを行う。
評価方法	出席態度（10%）、レポート・小テスト（20%）、定期試験（70%）により総合的に評価する。
教科書	授業中にレジュメを配布する。
参考図書	「特別支援学校教育要領・学習指導要領」
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	受講するにあたって特別支援教育に関する「問い」や「疑問」を持ち寄っていただき、その答えや解決への道筋を皆さんとともに授業の中で追及していきたい。連絡先：kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

授業計画表

第1回	内容 特別支援教育の理念
第2回	内容 特殊教育から特別支援教育へ

第3回	内容 特別支援教育の場
第4回	内容 教育課程の概要
第5回	内容 特別支援教育（視覚障害教育）の対象と指導方法の概要
第6回	内容 特別支援教育（聴覚障害教育）の対象と指導方法の概要
第7回	内容 特別支援教育（知的障害教育）の対象と指導方法の概要
第8回	内容 特別支援教育（肢体障害教育）の対象と指導方法の概要
第9回	内容 特別支援教育（病弱虚弱教育）の対象と指導方法の概要
第10回	内容 特別支援教育における自立活動
第11回	内容 特別支援教育におけるキャリア教育
第12回	内容 地域における社会資源との連携
第13回	内容 特別支援教育の専門性
第14回	内容 障害者権利条約と特別支援教育
第15回	内容 特別支援教育論のまとめ・授業内テスト
第16回	内容 試験なし

年度	2025
講義コード	3110003501
講義名称	障害児保育
代表ナンバリングコード	OH32S0210
講義区分	演習
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 教育保育学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 小柳津 和博	教育保育学部教育保育学科
専任教員	藤井 七瀬	教育保育学部教育保育学科
専任教員	柏倉 秀克	教育保育学部教育保育学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 高い学修意欲や永続的な自己開発意欲を踏まえて、自主的・主体的に学び活動する力を身につけている。	○
2. 豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル等を踏まえて、他者と協力・協同して学び合う力を身につけている。	
3. 教育・保育に関する課題を発見・理解するために必要な、豊かな教養、専門的な知識・技術を身につけている。	◎
4. 教育・保育に関する課題を分析・解決する力として、必要な情報を収集・選択・活用する思考力、判断力や、的確に他者へ伝える表現力を身につけている。	

授業概要と方法	この授業科目では、元特別支援学校教諭としての経験を踏まえ、障害等により特別の支援を必要とする子どもを保育する保育所、施設等における指導・支援方法について具体的な検討を行う。また、障害児保育を実施するための支援計画・指導計画の作成・活用について体験的に学ぶことができるようにする。【AL】 1. 障害児保育を支える理念、2. 障害児等の理解と保育における発達の援助、3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際、4. 家庭及び自治体・関係機関との連携、5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題、これらについてDVD等の映像や事例を活用しながら学ぶ。
授業の到達目標	① 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。[DP] ② 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。[DP] ③ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。[DP] ④ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。[DP] ⑤ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。[DP]
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	教科書を読み、授業内容の発表を学生が行う。オリエンテーションでグループ分けを行う。 事例検討についてもグループ分けし、支援の方法を学び合う。障害のある子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。
評価方法	3名の教員の評価点を合計して、成績評価を行う。授業内容発表（5%）、事例検討会発表（10%）、小テスト・レポート（75%）、授業への参加態度（10%）により総合的に評価する。 授業の最後にフィードバックを行う。
教科書	特別の支援を必要とする子どもの理解—共に育つ保育を目指して—（勝浦眞仁編著、ナカニシヤ出版）
参考図書	保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	保育者を目指す学生にとって、障害のある子どもたちとの出会いは貴重な機会であり、自身の保育観・障害観を見つめ直す機会となる。2年生での学びやこれまでの実習での体験を基に、さらに理解を深めてほしい。 連絡先：kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp fujii@ohkagakuen-u.ac.jp

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション、障害に関するイントロダクション
第2回	内容 ＜柏倉担当＞ 障害児保育の歴史の変遷－統合保育まで－
第3回	内容 障害児保育の現状－インクルージョンに向けて－
第4回	内容 特別支援教育からインクルーシブ教育へ－障害者権利条約と合理的配慮－
第5回	内容 関係者との連携（地域専門機関、小学校）
第6回	内容 ＜小柳津担当＞ 子ども同士の関わり合い・育ち合い
第7回	内容 個々の発達を促す生活と遊びの環境
第8回	内容 保護者・家族との連携
第9回	内容 個別の支援計画・指導計画の作成と活用、ケース会議
第10回	内容 ＜藤井担当＞ 障害児保育の対象：特別な配慮を必要とする子ども（気になる子ども）
第11回	内容 NPO・学童保育での障害児保育
第12回	内容 子どもの健康と安全、医療的ケア児の保育
第13回	内容 乳幼児健康診査、就学時健康診断
第14回	内容 事例検討会の準備
第15回	内容 事例検討会（発表）
第16回	内容 試験なし

年度	2025
講義コード	3120002101
講義名称	幼児造形A
代表ナンバリングコード	
講義区分	演習
基準単位数	1.0
講義開講時期	前期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 国際教養こども学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 田端 智美	教育保育学部国際教養こども学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. 共通教育科目・専門教育科目の学修を通して、教育・保育に関する専門的知識・技能を修得し、国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と知識と教養を身につけている。	
2. 日本と海外の保育を学修して2ヵ国の保育士資格取得を目指すとともに、各国の保育の比較を通して自らのより望ましい保育のあり方について考察する力を身につけている。	○
3. 国内外での実習と卒業研究に取り組むことで、課題を見出し解決する力と論理的思考力を身につけている。	
4. 多文化共生社会に生きる子どもと保護者の支援を行うのに必要な異文化受容能力を身につけている。	◎
5. グローバル時代に対応できる日本語及び英語を中心とする外国語による高いコミュニケーション能力を身につけている。	

授業概要と方法	保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。
授業の到達目標	造形的な保育実践に必要な表現力と知識を身につける（DP） (1) 保育実践に必要な表現力を身につける 保育実践に必要な造形の発想・構想の力・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力・保育実践に必要な造形表現の方法について伝える力 (2) 保育実践に関する知識についての理解 造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴・保育実践に必要な造形の用具の基本的・基礎的な扱いと安全性・保育実践に必要な造形活動の環境構成を理解する
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	授業内で詳細を提示 準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。 事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。 その他提出課題（ポートフォリオ・ポップアップカード等）があります。
フィードバックの方法	学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%）フィードバックについて授業シートを記入
評価方法	学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%）フィードバックについて授業シートを記入
教科書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、
参考図書	3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	保育者となったときのこのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。 連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

授業計画表

第1回	内容 幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（描画について）
第2回	内容 平面演習1（ドリップング・パチックなど）

第3回	内容 平面演習2 (マーブリング・染紙など)
第4回	内容 平面演習3 (スタンピングなど)
第5回	内容 平面演習4 (紙版画)
第6回	内容 ポップアップカードの制作1 (とび出す仕組みについて)
第7回	内容 ポップアップカードの制作2・提出
第8回	内容 活動を振り返って (ICTを使った活動評価とまとめ) (AL)

年度	2025
講義コード	3120002201
講義名称	幼児造形B
代表ナンバリングコード	
講義区分	演習
基準単位数	1.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 国際教養こども学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 田端 智美	教育保育学部国際教養こども学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. 共通教育科目・専門教育科目の学修を通して、教育・保育に関する専門的知識・技能を修得し、国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と知識と教養を身につけている。	
2. 日本と海外の保育を学修して2ヵ国の保育士資格取得を目指すとともに、各国の保育の比較を通して自らのより望ましい保育のあり方について考察する力を身につけている。	○
3. 国内外での実習と卒業研究に取り組むことで、課題を見出し解決する力と論理的思考力を身につけている。	
4. 多文化共生社会に生きる子どもと保護者の支援を行うのに必要な異文化受容能力を身につけている。	◎
5. グローバル時代に対応できる日本語及び英語を中心とする外国語による高いコミュニケーション能力を身につけている。	

授業概要と方法	保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現と小学校低学年の図画工作等の学習活動を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して応用的に身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。
授業の到達目標	造形的な保育実践に必要な表現力と知識を応用的に身につける。（DP） (1) 保育実践に必要な応用的な表現力 保育実践に必要な造形の発想・構想の力を身に付ける・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力を身に付ける・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力を身に付ける・保育実践に必要な発展的な造形表現の方法について伝える力を身に付ける (2) 保育実践に関する知識 造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴について理解・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴について理解・保育実践に必要な造形の用具の応用的な扱いと安全性・保育実践に必要な造形活動の環境構成について理解
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	授業内で詳細を提示 準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。 事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。 その他提出課題（ポートフォリオ等）があります。
フィードバックの方法	授業シートを記入
評価方法	学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%）
教科書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、
参考図書	3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	保育者となったときのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。 連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

授業計画表

第1回	内容 幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（工作について）
第2回	内容 立体演習1（空き箱を使った工作について）

第3回	内容 立体演習2（牛乳パックを使った工作について）
第4回	内容 立体演習3（紙皿・紙コップを使った工作について）
第5回	内容 立体演習4（造形あそびについて）
第6回	内容 製作活動を通した模擬保育1（素材を組み合わせた表現について）
第7回	内容 製作活動を通した模擬保育2（粘土遊びについて）
第8回	内容 活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）（AL）

年度	2025
講義コード	3120001301
講義名称	子ども理解の理論と方法
代表ナンバリングコード	OK21S0012
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 国際教養こども学科
必須/選択	必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ ダーリンブル 規子	教育保育学部国際教養こども学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. 共通教育科目・専門教育科目の学修を通して、教育・保育に関する専門的知識・技能を修得し、国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と知識と教養を身につけている。	◎
2. 日本と海外の保育を学修して2ヵ国の保育士資格取得を目指すとともに、各国の保育の比較を通して自らのより望ましい保育のあり方について考察する力を身につけている。	○
3. 国内外での実習と卒業研究に取り組むことで、課題を見出し解決する力と論理的思考力を身につけている。	
4. 多文化共生社会に生きる子どもと保護者の支援を行うのに必要な異文化受容能力を身につけている。	
5. グローバル時代に対応できる日本語及び英語を中心とする外国語による高いコミュニケーション能力を身につけている。	

授業概要と方法	本科目は、保育・教育において基盤となる子ども理解について、その理論を学ぶ。特に、子どもは様々な関係性の中で生きているという視点について学習する。そのうえで、様々な事例（エピソード記録）・映像資料等を通して、幼児理解の方法をグループディスカッション及びプレゼンテーションを通して学ぶ。コミュニケーションシートを使つての質疑応答を行う。【AL】
授業の到達目標	1. 幼児理解の様々な理論という保育の専門的知識を修得し、これらの視点について理解する(DP1)。 2. 保育の専門的知識として重要な、観察及び記録のあり方を修得し、幼児理解の意義を理解する(DP1)。 3. 観察や記録から、周りの幼児との関係やその他の背景を鑑み、多様な文化的背景を持った幼児についても理解し、異文化受容能力を身に着ける(DP4)。
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	最初の授業時に、各授業における資料や参考図書について説明をする。該当の授業の前には、それらの資料・図書を読んでおくこと（2～3時間）。また、事後学修としては、課題レポートを完成させておくこと（1時間）。
フィードバックの方法	コミュニケーションシートのフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて、全体へも伝える。
評価方法	ルーブリックの視点から、授業態度(10%)、課題(30%)、発表(10%)、定期試験(50%)で総合的に評価する。
教科書	適宜資料を配布する
参考図書	「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション、「君が僕の息子について教えてくれたこと」から「理解」について学ぶ
第2回	内容 乳幼児精神保健からの乳幼児理解：間主観性、愛着、関係性、やりとりの重要性

第3回	内容 脳科学から見た乳幼児理解
第4回	内容 あそびの重要性、子どもの行為の意味の探究
第5回	内容 海外の保育における乳幼児理解
第6回	内容 観察力・記録力・考察力・内省力と関わり
第7回	内容 ロバートソンフィルム「ジョン」を見て、読み解く
第8回	内容 ロバートソンフィルム「ルーシー」を見て、読み解く
第9回	内容 エピソード記録：意義、事例を読み解く(グループディスカッション)
第10回	内容 各グループによるプレゼンテーション
第11回	内容 エピソード記録を書く
第12回	内容 エピソード記録についてのカンファレンス(グループ活動)
第13回	内容 カンファレンスについての振り返りの発表
第14回	内容 ドキュメンテーション：エピソード記録からドキュメンテーションを書く
第15回	内容 ドキュメンテーションの発表
第16回	内容 定期試験

年度	2025
講義コード	3120000301
講義名称	保育者論
代表ナンバリングコード	OK12S0008
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 国際教養こども学科
必須/選択	必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ ダーリンブル 規子	教育保育学部国際教養こども学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. 共通教育科目・専門教育科目の学修を通して、教育・保育に関する専門的知識・技能を修得し、国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と知識と教養を身につけている。	◎
2. 日本と海外の保育を学修して2ヵ国の保育士資格取得を目指すとともに、各国の保育の比較を通して自らのより望ましい保育のあり方について考察する力を身につけている。	○
3. 国内外での実習と卒業研究に取り組むことで、課題を見出し解決する力と論理的思考力を身につけている。	
4. 多文化共生社会に生きる子どもと保護者の支援を行うのに必要な異文化受容能力を身につけている。	
5. グローバル時代に対応できる日本語及び英語を中心とする外国語による高いコミュニケーション能力を身につけている。	

授業概要と方法	本科目は、資格取得と目指そうとしている保育者の全体像を学ぶ。具体的には、役割と職務内容と必要な専門性を、具体的な映像や事例を、グループディスカッション等を取り入れながら学ぶ。そして保育者の専門性について、絵本を毎回2人に読んでもらうという実践の中からも学ぶ。【AL】
授業の到達目標	1. 保育者の役割・制度的位置づけについて理解し、保育者の専門性の根拠となる知識を身に付けることができる(DP1)。 2. 保育者の職務内容を学ぶ中で、各国に共通する資質・専門性について理解し、保育者の専門性について考えることができる(DP2)。 3. 保育者が同僚・家族や地域と連携・協働していく必要性について理解し、幅広い視野で保育について考えていくことができる(DP1)。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)	準備学修として、該当箇所のテキスト及び資料を熟読しておくこと。また、絵本の順番にあたっている人は、必ず練習をしておくこと。(2～3時間) 事後学修としては、課題プリントを完成させておくこと(1時間)。
フィードバックの方法	コミュニケーションシートへのフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。
評価方法	ルーブリックの視点から、定期試験(50%)、課題(40%)、授業態度(10%)で総合的に評価する。
教科書	「新・保育シリーズ15 保育者論」中坪史典・請川滋大監修 上村晶編 学術図書出版社
参考図書	「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」
その他(学生へのアドバイス、連絡手段等)	質問等ある場合は、授業前後・オフィスパワーを使うか、私の部屋まで来てください。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション、保育者のイメージ・保育者になりたいと思った理由
第2回	内容 保育とは、保育者とは・現代における保育者の社会的意義
第3回	内容 保育者の制度的位置づけと倫理①幼稚園教諭の仕事
第4回	内容 保育者の制度的位置づけと倫理②保育士の仕事

第5回	内容 保育環境の意義と保育者の役割
第6回	内容 子どもの主体的な遊ぶを支える保育者の役割
第7回	内容 子どもの権利を保障する保育者の役割
第8回	内容 保育者の職務内容（1）指導計画をデザイン・評価する保育者
第9回	内容 保育者の職務内容（2）家庭や地域と連携・協働する保育者
第10回	内容 多様性と包括性を意識した保育者
第11回	内容 保育者の連携と協働
第12回	内容 保育者の専門職的成長
第13回	内容 要領・指針にみる保育者の役割
第14回	内容 国際的な幼児教育・保育の現状
第15回	内容 保育者に求められる資質や専門性
第16回	内容 定期試験

年度	2025
講義コード	3120000701
講義名称	保育内容指導法（環境）
代表ナンバリングコード	OK12S0103
講義区分	演習
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 国際教養こども学科
必須/選択	必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ ダーリンブル 規子	教育保育学部国際教養こども学科

到達目標と関連する学科DP（◎：深い関連がある、○：関連がある）

1. 共通教育科目・専門教育科目の学修を通して、教育・保育に関する専門的知識・技能を修得し、国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と知識と教養を身につけている。	
2. 日本と海外の保育を学修して2ヵ国の保育士資格取得を目指すとともに、各国の保育の比較を通して自らのより望ましい保育のあり方について考察する力を身につけている。	○
3. 国内外での実習と卒業研究に取り組むことで、課題を見出し解決する力と論理的思考力を身につけている。	
4. 多文化共生社会に生きる子どもと保護者の支援を行うのに必要な異文化受容能力を身につけている。	◎
5. グローバル時代に対応できる日本語及び英語を中心とする外国語による高いコミュニケーション能力を身につけている。	

授業概要と方法	本科目では、“保育は環境を通して行われる”と言われる、保育にとって重要な領域“環境”のねらい及び内容を、自然環境の中での実際の体験も含めて学ぶ。特に、多文化共生社会に生きる子どもたちに必要な環境について、どのような視点が必要かを、事例等から学ぶ。また、実際に環境構成案を作成し、グループで発表・討論することで、領域“環境”についての実際について学ぶ。【AL】
授業の到達目標	1. 一人ひとりが生き生きと生活をする環境を考えるためには、多文化共生社会に生きる親子に対する異文化受容能力が必要であることを理解する。（DP4） 2. 環境の視点から、日本における乳幼児の生活や遊びについて、保育者が留意、配慮すべき事項を理解し、ニュージーランドの保育と比較考察ができる。（DP2） 3. 乳幼児の発達過程に即し、子ども主体の保育場面を想定し、環境構成等できるようになるとともに、日本とニュージーランドの保育のそれぞれの良さを考えることができる。（DP2）
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	毎回の授業時まで、関連する教科書の箇所・資料を熟読する。時に、事前課題を出すこともある。（2～3時間）また、事後学修として、課題レポートを完成させておくこと（1時間）。
フィードバックの方法	コミュニケーションシートへのフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。
評価方法	ルーブリックの視点から、定期試験（50%）、課題（40%）、授業への参加態度(10%)で総合的に評価する。
教科書	適宜、資料を配布する。
参考図書	「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション、幼児教育の基本・子ども主体の保育は、環境を通した保育から
第2回	内容 ーセンスオブワンダー・森のダンゴムシ・里山保育人ひとりを大切にする保育ー 乳幼児の育ちと領域「環境」

第3回	内容 自然と関わるということ（実践）－森林アカデミーの萩原教授との自然体験
第4回	内容 自然との関わり（第3回の講義）の振り返り－保育マップで実践を振り返る
第5回	内容 自然と関わるということ（実践）－森林アカデミー萩原教授と自然の中でのあそび場作り
第6回	内容 自然と関わるということを保育者の目線で考える
第7回	内容 ものや道具に関わって遊ぶ
第8回	内容 文字や標識、数量や図形、遊びや生活の情報に興味を持つ・地域に親しむ
第9回	内容 乳児、1～2歳児の世界と環境・幼児期の思考力の芽生え
第10回	内容 多文化共生社会にいきる子どもたちに必要な環境
第11回	内容 主体性を大切にした指導案とは－マップ型保育指導案から環境を考える
第12回	内容 主体性を大切にした指導案とは－時系列保育指導案から環境を考える
第13回	内容 自然とのかかわりを支える保育の指導案の作成（グループディスカッション）
第14回	内容 グループごとの発表
第15回	内容 環境における現代的課題と保育
第16回	内容 定期試験

年度	2025
講義コード	3120000101
講義名称	乳児保育Ⅰ
代表ナンバリングコード	OK22S0022
講義区分	演習
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 教育保育学部 国際教養こども学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ ダーリンブル 規子	教育保育学部国際教養こども学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. 共通教育科目・専門教育科目の学修を通して、教育・保育に関する専門的知識・技能を修得し、国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と知識と教養を身につけている。	◎
2. 日本と海外の保育を学修して2ヵ国の保育士資格取得を目指すとともに、各国の保育の比較を通して自らのより望ましい保育のあり方について考察する力を身につけている。	○
3. 国内外での実習と卒業研究に取り組むことで、課題を見出し解決する力と論理的思考力を身につけている。	
4. 多文化共生社会に生きる子どもと保護者の支援を行うのに必要な異文化受容能力を身につけている。	
5. グローバル時代に対応できる日本語及び英語を中心とする外国語による高いコミュニケーション能力を身につけている。	

授業概要と方法	本科目は、保育の中でも乳児の保育に特化し、3歳未満児および3歳児の発達の姿とそれを踏まえた保育の内容・方法を系統的に学ぶ。そして、3歳未満児保育の意義、乳児理解に関する様々な理論等について学ぶ。特に、乳児の具体的な姿を想像しながら学べるように、動画や事例を活用し、また、わらべうた等実践も取り入れる。コミュニケーションシートを使っての質疑応答を行う。【AL】
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育がなぜ必要か、その意義と目的について理解し、専門的知識を身につける(DP1)。 2. 乳児保育の現状と課題について理解し、幅広い視野を持つ(DP1)。 3. 3歳未満児の発達を踏まえた保育内容について理解し、日本での乳幼児に適した保育について考えることができる(DP2)。 4. 乳児保育における職員・保護者や地域との連携について理解し、日本における保育のあり方を考えることができる(DP2)。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)	毎回の授業時まで、関連する教科書の箇所・資料を熟読するとともに、授業に向かう際の目標を決めておくこと。時に、事前課題を出すこともある。(2～3時間) また、事後学修として、課題レポートを完成させておくこと(1時間)。
フィードバックの方法	コミュニケーションシートへのフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。
評価方法	ループリックの視点から、定期試験(50%)、課題(40%)、授業への参加態度(10%)で総合的に評価する。
教科書	「改訂5版 資料で分かる乳児の保育新時代」乳児保育研究会編 ひとなる書房
参考図書	「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
その他(学生へのアドバイス、連絡手段等)	質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション・赤ちゃんって？
第2回	内容 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷

第3回	内容 子どもの姿を通しての発達理解と保育（その1：0歳児）
第4回	内容 子どもの姿を通しての発達理解と保育（その2：1歳児）
第5回	内容 子どもの姿を通しての発達理解と保育（その3：2～3歳児）
第6回	内容 3歳未満児の生活（その1：栄養と食事）
第7回	内容 3歳未満児の生活（その2：排泄）
第8回	内容 3歳未満児の生活（その3：安全・清潔・睡眠）
第9回	内容 3歳未満児のあそび（その1：ふれあいの大切さ わらべうた）
第10回	内容 3歳未満児のあそび（その2：子どものひとりあそびの映像から考える）
第11回	内容 3歳未満児のあそび（その3：教科書のエピソードから考える）
第12回	内容 保育の記録
第13回	内容 保育の計画
第14回	内容 保育士のあり方—職員・保護者・地域との連携協働
第15回	内容 乳児保育の現状と課題とこれから
第16回	内容 定期試験

年度	2025
講義コード	3210009101
講義名称	英語科教育法Ⅰ
代表ナンバリングコード	OG21S6010
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	桜花学園大学 国際学部国際学科
必須/選択	選択必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 石渡 雅之	国際学部国際学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力	
2. グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力	○
3. 修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力	◎
4. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力	

授業概要と方法	この授業科目では、元中学校・高等学校教諭での経験を踏まえ、英語教育を行う場として小学校、中学校・高等学校における指導・実践方法について具体的な検討を行う。また、英語教育を実施するための学習指導案の作成・活用について体験的に学ぶことができるようにする。【AL】 【概要】 この授業科目では、中学校及び高等学校教諭としての経験を踏まえ、教育現場における英語指導方法について必要な理論の検討を行う。また、中学校、高等学校での英語授業を実施するための指導計画の作成・活用についても、教育現場の最新情報を確認しながら体験的に学ぶことができるようにする。尚、本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」と関連している。
授業の到達目標	a. 学習指導要領を理解し、主として中学校における教育課程編成のあり方を理解することができる。また学習指導要領における中学校での外国語教育の位置づけを理解することができる。b.4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）の指導方法を理解することができる。c.英語教育諸理論、ならびに関連分野の諸理論を理解することができる。d.主として中学校における授業を想定した指導案を作成することができる。f. 実践的な英語コミュニケーション能力の意味を理解し、教師が持つべき論理・創造的発信力を身につけることができる。（DP）
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	教育は大変時間が必要とされる分野である。しっかりとした理論を書籍や研究論文を通して学び、それをどのように授業実践にいかしていくべきなのか？ということを常に考えることが必要である。また、毎週4時間程度の授業外学修が必要であることに加え、英語教育に関するニュース等は常に意識して、見たり聞いたりすることが望ましい。
フィードバックの方法	模擬授業のフィードバック・指導案作成課題のフィードバックは授業時間内に一定時間とって行う予定である
評価方法	①授業中の小テスト 10% ②原書購読課題 30% ③学期末のレポート 50% ④CR 10%
教科書	石田雅近・小泉仁・古家貴雄（著）新しい英語科授業の実践（金星堂）笠島準一（他 代表）NEW HORIZON 1/2/3（東京書籍）
参考図書	文部科学省 小学校／中学校／高等学校学習指導要領
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	1年次の教職科目をすべて履修していること、および学習指導案の作り方を理解していることを原則とする。その他、学科教職課程委員会の定める履修規定が適用される 研究室：7311

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション（授業進行説明）
第2回	内容 中学校教育課程編成のあり方について

第3回	内容 試験—英語教育と語用論中学校教育課程編成のあり方について
第4回	内容 英語教育に求められているもの
第5回	内容 中学校授業実施のための学習指導案作成方法、および授業分析方法
第6回	内容 中学校英語授業の現状（※中間アンケート実施）
第7回	内容 学習指導要領における外国語活動（小学校）の位置づけについて
第8回	内容 小学校における外国語活動と英語教育
第9回	内容 英語教授法解説
第10回	内容 コミュニケーション能力の育成について
第11回	内容 リスニング指導のあり方（選択的リスニング・包括的リスニング・相互作用的リスニング）
第12回	内容 スピーキング指導のあり方（発音指導・ゲームの有用性・インフォメーションギャップをいかした指導法）
第13回	内容 リーディング指導のあり方（スキーマ理論・音読/黙読の有効性）
第14回	内容 ライティング指導のあり方（フリーライティングアプローチ・パラグラフパターンアプローチ・文法/統語・構成アプローチ）
第15回	内容 授業総括/英語模擬授業について（※学期末授業アンケート実施）

年度	2025
講義コード	3210009201
講義名称	英語科教育法 II
代表ナンバリングコード	OG22S6011
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 国際学部国際学科
必須/選択	選択必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 石渡 雅之	国際学部国際学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力	
2. グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力	○
3. 修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力	◎
4. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力	

授業概要と方法	この授業科目では、元中学校・高等学校教諭での経験を踏まえ、英語教育を行う場として小学校、中学校・高等学校における指導・実践方法について具体的な検討を行う。また、英語教育を実施するための学習指導案の作成・活用について体験的に学ぶことができるようにする。【AL】 【概要】 この授業科目では、中学校及び高等学校教諭としての経験を踏まえ、教育現場における英語指導方法について必要な理論の検討を行う。また、中学校、高等学校での英語授業を実施するための指導計画の作成・活用についても行い、それらに基づく模擬授業を多く実践し、体験的な学びを多く取り入れることとする。尚、本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」と関連している。
授業の到達目標	a. 前期に学んだ英語教育理論を実践に応用することができる。b. 学校文法の正しい知識を、コミュニケーション活動を中心とした活動で学習者に伝えるような授業を考えることができる。c. 教科書をもとに、適切な学習指導案を作成することができる。d. 教師/学習者それぞれの立場で積極的に模擬授業に参加することができる。f. 実践的な英語コミュニケーション能力の意味を理解し、教師が持つべき論理・創造的発信力を身につけることができる。 (DP)
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)	教育は、その実践を行う前に大変準備時間が必要とされる分野である。模擬授業指導案は、様々な実践方法をDVDなどを通してイメージし、時間をかけて作成しなければならない。また、毎週4時間程度の授業外学修が必要であるが、その際に前期に学んだ各種英語教育理論をどのように実践にいかしていくべきなのか?ということを常にイメージしておくことが要求される。
フィードバックの方法	模擬授業のフィードバック・指導案作成課題のフィードバックは授業時間内に一定時間をとって行う予定である
評価方法	①CR 10% ②担当授業に対しての学習指導案の作成 20% ③模擬授業において、教師として授業をマネジメントする姿勢 20% ④学期末のレポート 50%
教科書	石田雅近・小泉仁・古家貴雄(著) 新しい英語科授業の実践(金星堂) 笠島準一(他 代表) NEW HORIZON 1/2/3(東京書籍)
参考図書	文部科学省 小学校/中学校/高等学校学習指導要領
その他(学生へのアドバイス、連絡手段等)	前期の英語科教育法Ⅰ受講に際し、適用される要件、並びに英語科教育法Ⅰを履修済みであることを、原則として受講条件とする。研究室：7311

授業計画表

第1回	内容 オリエンテーション(授業概要説明)
第2回	内容 模擬授業1、およびその分析(テーマ: be動詞の指導方法)

第3回	内容 模擬授業2、およびその分析（テーマ：一般動詞の指導方法）
第4回	内容 模擬授業3、およびその分析（テーマ：疑問詞の指導方法）
第5回	内容 模擬授業4、およびその分析（テーマ：助動詞の指導方法）
第6回	内容 模擬授業5、およびその分析（テーマ：過去形の指導方法）
第7回	内容 模擬授業6、およびその分析（テーマ：進行形の指導方法）
第8回	内容 模擬授業7、およびその分析（テーマ：不定詞の指導方法）
第9回	内容 模擬授業8、およびその分析（テーマ：比較構文の指導方法）
第10回	内容 模擬授業9、およびその分析（テーマ：There構文の指導方法）
第11回	内容 模擬授業10、およびその分析（テーマ：受動態の指導方法）
第12回	内容 模擬授業11、およびその分析（テーマ：現在完了の指導方法）
第13回	内容 模擬授業12、およびその分析（テーマ：関係代名詞の指導方法）
第14回	内容 講義—新学習指導要領に基づく望ましい中学校英語授業のあり方について
第15回	内容 授業、模擬授業総括 ※学期末授業アンケート実施

年度	2025
講義コード	3210012701
講義名称	学校教育インターンシップ
代表ナンバリングコード	OG22Z9013
講義区分	実習
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 国際学部国際学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 石渡 雅之	国際学部国際学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力	
2. グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力	○
3. 修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力	◎
4. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力	○

授業概要と方法	<p>この授業科目では、元中学校・高等学校教諭での経験を踏まえ、言語教育を体験的に学ぶ場として主としてアメリカの小学校や中学校における指導・実践方法について具体的な教員としてのインターンシップ活動を支援していく。また、言語教育を実施するための学習指導案の作成・活用について体験的に学ぶことができるようにする。なお米国以外の場所で実施した場合も、同等の内容（量・質ともに）であると認められる場合は本授業の評価対象とすることができる。</p> <p>【概要】</p> <p>大学において、インターンシップ先の実習校について理解し、必要な業務内容を理解し、実際に業務に耐えうる知識をつけて、アメリカにおける公立学校で小学生、または中学生を対象とした日本語、英語の授業実践補助を行う。キャンパス内での授業における事前指導、ESCを活用した事前学習、現地での事前指導、教員補助実習、帰国後の事後指導の各内容が本授業に含まれる。尚、本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」と関連している。</p>
授業の到達目標	<p>①児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。</p> <p>②学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。</p> <p>③学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解することができる。</p> <p>④教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童又は生徒と関わりすることができる。</p> <p>⑤批判的思考で学校を見つめることができ、かつ外国における日本語教授・授業に携わる中で、国際社会貢献力を磨くことができる。</p>
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	<p>（事前）語学教育が海外においてどのように実施されているか（使用されている教授法や教材研究方法）調べること。</p> <p>（事後）語学教育で扱われていた各種教授法、教材作成方法がどのように日本の英語教育現場で活用できるか、研究すること。</p> <p>（事前・事後）教師の実際の役割を様々な角度から見つめ、理解すること。</p>
フィードバックの方法	<p>実習校の評価を見ながら、自身の記録と照合しインターンシップで見えた課題などについて、フィードバックを行う。フィードバックは対面・オンライン（現地にいる場合）の両方で実施する。</p>
評価方法	<p>ESCを活用した事前学習（10%）、オリエンテーションへの参加態度（10%）、インターンシップへの参加態度（30%）、インターンシップ受入れ校の評価（20%）、事後プレゼンテーション（20%）、CRP（10%）</p>
教科書	<p>行き先の学校・業務に応じたテキストを授業時まで指示する。</p>
参考図書	<p>文部科学省：中学校学習指導要領 文部科学省：高等学校学習指導要領</p>
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	<p>インターンシップ実施までに、学科が指定した教職課程に関する授業を履修済みであること。履修希望者は語学教育実践に必要な教授法や教材作成方法などをしっかりと身につけることが望ましい。実習中は、常に担当教員と連絡がとれるようにしておく（緊急時の携帯電話や通常コミュニケーションとしてムードルサイトの利用など予定である。 研究室 7311</p>

授業計画表

内容

1月下旬～2月初旬：キャンパスにおけるオリエンテーション（3日間実施予定）

2月初旬～3月中旬：アメリカ・ポートランドの公立小学校におけるインターンシップ（14日間実施予定）

※本授業は講義・演習・実習が組み合わさっている授業である。講義9時間、演習7時間、実習6.5時間の合計22.5時間をもって2単位を履修することが可能になるプログラムである。

第1回

年度	2025
講義コード	3210009301
講義名称	英語科教育法 III
代表ナンバリングコード	OG31S6012
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	桜花学園大学 国際学部国際学科
必須/選択	選択必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 柳田 綾	国際学部国際学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力	
2. グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力	○
3. 修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力	◎
4. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力	

授業概要と方法	この授業科目では、元高等学校教諭としての経験を踏まえ、高等学校における英語の指導方法について具体例を示し、理論と実践を繋げながら学ぶ。また、高等学校での英語教育を実施するための指導案作成・教材作成・評価方法について体験的に学ぶことができるようにする。【AL】 本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」をつけ、それらを将来教育分野において生かすことが意識されている。2年次に学んだ英語科教育法を更に発展させ、主に高等学校における教育課程編成のあり方を学ぶ。続いて英語科各科目の位置付け、目標などについて学び、英語授業を適切に行うための諸理論を学んでいく。使用テキストを概観しながら、学習指導要領と高校教科書を同時に分析していく。そして教科や科目の目標について講義を行う。必要に応じてディスカッションや発表を取り入れる。
授業の到達目標	1. 高等学校における教育課程編成のあり方を理解することができる。また、教育課程全体の中における英語科各科目教育の位置づけ・目標について理解することができる。2. 高等学校における英語授業の具体的な指導方法、および「授業分析方法と指導案作成方法」等の英語教育諸理論を理解することができる(DP)。3. 高等学校外国語科の学習指導案を作成することができる(DP)。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)	できるだけ多くの英語教育関連図書を読み、時間を作り、ワークショップや研究会に出席する事を強く薦める。また、受講生自身の英語力をさらに向上させるために、継続して英語を勉強し続けることが望ましい。授業外学修は最低4時間とする。
評価方法	①授業内パフォーマンス課題 40% (英語による指示指導・音読テスト) ②英語教育関連図書購読課題 20% ③中間・期末テスト 30% ④毎回のリフレクションとCR 10%
教科書	酒井 英樹, 廣森 友人, 吉田 達弘 (編著) 「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法 (大修館書店)
参考図書	文部科学省 「中学校／高等学校学習指導要領」「生徒指導提要」。その他授業時に指示する。
その他(学生へのアドバイス、連絡手段等)	オフィスアワーを含め、必要な連絡方法については授業時に指示する。

授業計画表

第1回	内容 コース紹介、シラバス説明、第1章 英語という言語の特質
第2回	内容 第2章 日本社会における英語：その歴史と必要性
第3回	内容 第3章 日本の外国語教育：育成すべき英語力とは

第4回	内容 第4章 コミュニケーション能力：育成すべき資質・能力
第5回	内容 第5章 英語教育の共通性：第二言語習得のプロセス
第6回	内容 第6章 言語適性：英語学習の多様性に影響を与える認知要因
第7回	内容 第7章 動機づけ：英語学習の多様性に影響を与える情意要因
第8回	内容 第8章 学習方略：英語学習の多様性に影響を与える行動要因
第9回	内容 第9章 学習評価のあり方・進め方：目標に基づく指導と評価の一体化の実現のために
第10回	内容 第12章 高等学校の指導と評価
第11回	内容 第12章 高等学校の指導と評価（リスニング）
第12回	内容 第12章 高等学校の指導と評価（スピーキング）
第13回	内容 第12章 高等学校の指導と評価（リーディング）
第14回	内容 第12章 高等学校の指導と評価（ライティング）
第15回	内容 前期のまとめとCR提出

年度	2025
講義コード	3210009401
講義名称	英語科教育法 IV
代表ナンバリングコード	OG32S6013
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 国際学部国際学科
必須/選択	選択必須

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 柳田 綾	国際学部国際学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力	
2. グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力	○
3. 修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力	◎
4. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力	

授業概要と方法	<p>この授業科目では、元高等学校教諭としての経験を踏まえ、高等学校における英語の指導方法について具体例を示し、理論と実践を繋げながら学ぶ。また、高等学校での英語教育を実施するための指導案作成・教材作成・評価方法について、英語科教育法IIIで学んだことを模擬授業で実践して身に付けることができるようにする。</p> <p>本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」をつけ、それらを将来教育分野において生かすことが意識されている。英語科教育法IVでは、教育実習で実際に英語授業を行うために必要な訓練を行う。前期の同授業IIIに続き、より実践に近い形を想定してこの授業を位置付ける。前期に学んだ英語教育諸理論を授業実践の中でどのように生かすかということを考える機会にすることが、本授業の最終的な目標である。</p>
授業の到達目標	<p>1. 前期に学んだ英語教育理論を実践に応用することができる。 2. 学校文法の正しい知識を、コミュニケーション活動を中心とした活動で学習者に伝えるような高校の授業を考えることができる(DP)。 3. 高校の教科書をもとに、適切な学習指導案を作成することができる(DP)。 4. 教師/学習者それぞれの立場で積極的に模擬授業に参加することができる(DP)。</p>
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)	<p>できるだけ多くの英語教育関連図書を読み、時間を作り、ワークショップや研究会に出席する事を強く薦める。また、受講生自身の英語力をさらに向上させるために、継続して勉強し続けることが望ましい。授業外学修は最低4時間とする。</p>
フィードバックの方法	<p>授業内またはMoodleにてフィードバックを行う。</p>
評価方法	<p>①教科書分析課題(10%) ②模擬授業(50%) ③指導案・CR(20%) ④図書・DVD・研修課題(20%)</p>
教科書	<p>語学教育研究所(編著)英語授業の「型」づくり おさえておきたい指導の基本</p>
参考図書	<p>文部科学省 「中学校/高等学校学習指導要領」「生徒指導提要」。その他授業時に指示する。</p>
その他(学生へのアドバイス、連絡手段等)	<p>オフィスアワーを含め、必要な連絡方法については授業時に指示する。</p>

授業計画表

第1回	<p>内容</p> <p>オリエンテーション(授業進行説明)、発音・音読の指導</p>
第2回	<p>内容</p> <p>コミュニケーション活動のデザインと実施(1) コミュニケーション英語</p>

第3回	内容 コミュニケーション活動のデザインと実施（2）英語表現（論理・表現）
第4回	内容 評価とテスト
第5回	内容 標準的授業構成と授業のモデル
第6回	内容 指導案検討と模擬授業（1）5文型
第7回	内容 指導案検討と模擬授業（2）時制
第8回	内容 指導案検討と模擬授業（3）助動詞
第9回	内容 指導案検討と模擬授業（4）受動態
第10回	内容 指導案検討と模擬授業（5）不定詞
第11回	内容 指導案検討と模擬授業（6）動名詞
第12回	内容 指導案検討と模擬授業（7）分詞
第13回	内容 指導案検討と模擬授業（8）関係詞
第14回	内容 指導案検討と模擬授業（9）比較
第15回	内容 指導案検討と模擬授業（10）仮定法、CR提出

年度	2025
講義コード	3210010401
講義名称	観光学概論
代表ナンバリングコード	OG21S7004
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 国際学部国際学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 笹生 友広	国際学部国際学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力	○
2. グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力	
3. 修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力	○
4. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力	◎

授業概要と方法	<p>旅行会社での勤務経験を踏まえて、我が国の観光の現状を具体的事例を参照しながら検討を行う。</p> <p>近年、我が国の観光を取り巻く環境が大きく変化していく中で、観光の基本的知識を学び、今後の方向性を考える場とする。</p> <p>本授業においては学芸学部のディプロマポリシーにある「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」の習得が望まれる。少子高齢社会の中、我が国の重要な成長戦略の柱の一つになった「観光」について、観光資源・観光産業・観光政策の観点から、その歴史的背景の基礎を学び、今後の観光の在り方について考える。講義が中心であるが、画像・映像などを多用することにより理解しやすい内容とする。また、大学周辺の学外研修やパワーポイント作成・発表、グループ討議も取り入れる。授業テーマ毎にレポートを提出し理解度を把握する。【AL】</p>
授業の到達目標	<p>①我が国の観光の歴史や観光資源、観光産業などについて基本的な知識を習得する（DP）</p> <p>②我が国の観光政策の現状を理解し、それぞれの課題に対して自分なりの考えをまとめる（DP）</p>
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	<p>各種メディア（新聞、書籍、TV等）や、観光庁をはじめ各自治体や観光協会、NPO法人等のホームページ、SNSから情報を入手し、社会情勢に対して強い関心を持つ。予習復習併せて毎週4時間程度の学習が望まれる。</p>
フィードバックの方法	<p>次回の授業において、前回授業レポートへのコメントフィードバック時に、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案、論文等の紹介する。</p>
評価方法	<p>授業への参加態度（30%）、期末レポート作成・発表（30%）、授業レポート（10%）、学外研修レポート（10%）、自分のまち調査（10%）、討議（10%）などを総合して評価する。</p>
教科書	<p>適宜プリントを配布。</p>
参考図書	<p>観光庁のホームページ、観光関連専門雑誌（㈱トラベルジャーナル発行）『トラベルジャーナル』など</p>
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	<p>連絡先 sasao@ohkagakuen-u.ac.jp</p> <p>研究室 7301号室</p> <p>毎回のレポートで質問などは随時受け付けます。個別質問はオフィスアワー等を活用してください。</p>

授業計画表

第1回	<p>内容</p> <p>授業オリエンテーション 観光学とは？定義と概念、観光を学ぶ意義について</p>
第2回	<p>内容</p> <p>観光がもたらす様々な効果①（ヒト・企業・地域・社会・経済・グローバル）</p>

第3回	内容 観光がもたらす様々な効果②（ヒト・企業・地域・社会・経済・グローバル）	
第4回	内容 観光の歴史①（中世からコロナ前まで）	
第5回	内容 観光の歴史②（コロナ後の観光）	
第6回	内容 観光の現状と課題① アウトバウンド旅行/インバウンド旅行	
第7回	内容 学外研修（有松周辺）	
第8回	内容 学外学修（有松周辺）のグループディスカッションとプレゼンテーション	
第9回	内容 観光産業について	
第10回	内容 観光資源について	
第11回	内容 観光政策と観光行政①（国の政策・法律関連）	
第12回	内容 観光政策と観光行政②（地域の政策：まちづくり・地域振興）	（CRP作成）
第13回	内容 調査：自分のまちの観光政策を調べよう	（CRP作成）
第14回	内容 討議：愛知県の観光政策について	（CRP提出）
第15回	内容 発表：期末レポート（パワーポイント）	

年度	2025
講義コード	3210010301
講義名称	観光政策論
代表ナンバリングコード	OG52S7010
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 国際学部国際学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 笹生 友広	国際学部国際学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力	
2. グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力	
3. 修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力	○
4. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力	◎

授業概要と方法	<p>旅行会社での勤務経験を踏まえて、我が国の行政による観光政策の変遷及び社会的効果等について、具体的事例を参照しながら検討を行う。</p> <p>本授業においては学芸学部のディプロマポリシーにある「現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」の習得が望まれる。</p> <p>近年の観光政策における大きな課題である「訪日観光（インバウンド）」、「観光まちづくり」および「日本人の海外旅行」の基本施策を学び、その社会的背景や政策内容を検討し、今後の方向性を模索する。それぞれのテーマ毎にレポートにまとめる。（4回）</p>
授業の到達目標	<p>①訪日観光（インバウンド）の現状を把握し、課題を抽出し、自分なりの解決策を見い出せるようになる。（DP）</p> <p>②観光まちづくりの現状を把握し、課題を抽出する。自分の出身地について具体的に調査し課題と解決策をまとめることができる。（DP）</p> <p>③日本人海外旅行の現状を把握し、課題を抽出できるようになる。（DP）</p>
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	<p>各種メディア（新聞、書籍、TV等）や、観光庁をはじめ各自治体や観光協会、NPO法人等のホームページ、SNSから情報を入手し、社会情勢に対して強い関心を持つ。予習復習併せて毎週4時間程度の学習が望まれる。</p>
フィードバックの方法	<p>次回の授業において、前回授業レポートへのコメントフィードバック時に、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案、論文等の紹介する。</p>
評価方法	<p>授業への参加態度（30%）、各テーマ毎レポート内容（15×3=45%）、外部講師レポート内容（15%）、CRP（10%）などを総合して評価する。</p>
教科書	<p>プリントを配布します。</p>
参考図書	<p>観光関連専門雑誌（㈱トラベルジャーナル発行）『トラベルジャーナル』など</p>
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	<p>連絡先 sasao@ohkagakuen-u.ac.jp 研究室 7301教室 毎回の授業内容についての質問はMoodleで随時受け付けます。個別質問はオフィスアワー等を活用してください。</p>

授業計画表

第1回	<p>内容</p> <p>授業オリエンテーション、現在の我が国の観光の状況と社会的背景</p>
第2回	<p>内容</p> <p>これまでの観光政策（訪日旅行）</p>
第3回	<p>内容</p> <p>訪日旅行の現状と課題①（インバウンドの過去から現状）</p>

第4回	内容 訪日旅行の現状と課題 ②（インバウンドの今後の在り方）
第5回	内容 グループディスカッション及びレポート提出（訪日旅行）
第6回	内容 これまでの観光政策（地域創生）
第7回	内容 地域創生：観光まちづくりの現状と課題 参考事例①
第8回	内容 地域創生：観光まちづくりの現状と課題 参考事例②
第9回	内容 地域創生：観光まちづくりの現状と課題 参考事例③
第10回	内容 グループディスカッション及びレポート提出（地域創生：観光まちづくり）
第11回	内容 愛知県の観光政策について（外部講師）①
第12回	内容 愛知県の観光政策について（外部講師）② レポート提出 （CRP作成）
第13回	内容 日本人海外旅行の現状と課題 ①（これまでの歴史） （CRP作成）
第14回	内容 日本人海外旅行の現状と課題 ②（今後において望まれること）（CRP提出）
第15回	内容 グループディスカッション及びレポート提出（日本人の海外旅行）
第16回	内容 試験なし

年度	2025
講義コード	3210010801
講義名称	観光マーケティング
代表ナンバリングコード	OG21S7008
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 国際学部国際学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 笹生 友広	国際学部国際学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力	
2. グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力	
3. 修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力	○
4. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力	◎

授業概要と方法	旅行会社での勤務経験を踏まえて、マーケティングの観点から観光産業における具体的事例を参照しながら学習する。本授業においては学芸学部ディプロマポリシーにある「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」の習得が望まれる。現代企業において最も重要な活動のひとつであるマーケティングの基本を学びながら、観光産業におけるマーケティングを具体的に学習し、グループディスカッションを行い、その内容を発表する。授業ごとにレポートを提出し理解度を把握する。【AL】
授業の到達目標	①一般的なマーケティングの基礎知識を習得する（DP） ②幅広い裾野を持つ観光産業の具体的な事例を参照に現状を分析する力を養う（DP） ③各分野の課題などを学修することにより自分なりの意見をまとめる力を養う（DP）
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	各種メディア（新聞、書籍、TV等）や、関連のホームページ、SNS等からマーケティング、観光産業の情報を入手し、社会情勢に対して強い関心を持つ。予習復習併せて毎週4時間程度の学習が望まれる。
フィードバックの方法	次回の授業において、前回授業レポートへのコメントフィードバック時に、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案、論文等の紹介する。
評価方法	授業への参加態度（30%）、期末レポート（40%）、毎回レポート（20%）、CRP（10%）などを総合して評価する。
教科書	プリントを配布します。
参考図書	授業にて指示します。
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	連絡先 sasao@ohkagakuen-u.ac.jp 研究室 7301号室 毎回のレポートで質問などは随時受け付けます。個別質問はオフィスアワー等を活用してください。

授業計画表

第1回	内容 一般的マーケティングの基本
第2回	内容 観光産業のマーケティング・ミックス（4P）
第3回	内容 人の購入行動（ニーズ・ウォンツ・需要の違い）

第4回	内容 顧客は誰？（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、ドメイン）
第5回	内容 購買意思決定プロセス
第6回	内容 旅行商品の流通
第7回	内容 競争戦略（価格戦略）①
第8回	内容 競争戦略（価格戦略）②
第9回	内容 マーケティングの環境分析（SWOT分析）① グループディスカッション
第10回	内容 マーケティングの環境分析（SWOT分析）発表② グループディスカッション
第11回	内容 商品のライフサイクル
第12回	内容 プロモーション（販売促進） (CRP作成)
第13回	内容 競争戦略（ブランド戦略） (CRP作成)
第14回	内容 顧客管理 (CRP提出)
第15回	内容 マーケティング・リサーチ

年度	2025
講義コード	3310012601
講義名称	観光と文化
代表ナンバリングコード	
講義区分	
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 国際学部 国際学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 根尾 文彦	国際学部国際学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. 幅広い知識と教養を身につけ、グローバルな視点から地域・国際社会を理解する能力を身につけている。	◎
2. グローバル社会における高度で実践的なコミュニケーション能力を身につけている。	
3. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力を身につけている。	
4. 国際社会の多岐にわたる問題について批判的思考ができ、論理的で創造的な発信ができ、主体的に行動できる能力を身につけている。	○

授業概要と方法	本授業においては国際学部のディプロマポリシーにある「幅広い知識と教養を身につけ、グローバルな視点から地域・国際社会を理解する能力を身につけている」を修得することが望まれる。多岐にわたる文化（伝統芸能、伝統芸術、食文化、芸術祭、美術館・博物館、産業観光）を観光の観点から考察し、その文化的価値を理解して、観光と文化の関連性について深く学びます。本授業は講義を主体として我が国と海外の事例を学び、グループでディスカッション・発表（2回）を行います。また講義時には毎回課題レポートが求められる。
授業の到達目標	①我が国の文化保存及び活用の状況を把握する。（DP1） ②海外の文化保存及び活用の状況を把握する。（DP1） ③グループで調査した事例について発表する（DP4）
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	毎回の授業で学んだことの中で、特に関心のある事項について各自で更に深く調査してレポート提出する。 文化資源に関する文献、記事などの情報量は多いので関心を持って各自で学ぶ。 事前・事後学修として週に4時間程度の自主学習が求められる。
フィードバックの方法	毎回の課題レポート内で質問を受け付けて、次回の授業内でフィードバックします。
評価方法	授業への取組意欲30%、毎回の課題レポート20%、グループディスカッション&発表20×2回=40%、CR10%
教科書	特になし、随時プリントを配布します。
参考図書	「西村幸夫 文化・観光論ノートー歴史まちづくり・景観整備」（鹿島出版会）、「文化財の価値を評価する 景観・観光・まちづくり」（水曜社）など
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	研究室 7307号室 neo@ohkagakuen-u.ac.jp

授業計画表

第1回	内容 9/29 授業のオリエンテーション（シラバスの説明など）、観光と文化の関連性
第2回	内容 10/6 我が国の文化保存活動の歴史、文化保存から活用への変化 我が国の文化財保存の歴史は古く明治時代から始まる。かつての保存活動から近年は保存のみでなく活用が求められるようになった。その変遷を学びます。

第3回	内容 10/13 我が国の伝統文化保存および活用について 伝統的芸術の三道（茶道、華道、書道）について学びます。
第4回	内容 10/20 我が国の伝統文化保存および活用について 伝統的芸能の歌舞伎、浄瑠璃、落語について学びます。
第5回	内容 10/27 日本の食文化と観光について ユネスコ無形文化遺産に登録された和食と観光との結びつきについて学びます。
第6回	内容 11/3 日本の酒文化と観光について ユネスコ無形文化遺産に登録された日本の伝統的酒造りと観光との結びつきについて学びます。
第7回	内容 11/17 世界の食文化と観光について 世界三大料理（中国・フランス・トルコ）と観光の結びつきについて学びます。
第8回	内容 11/24 観光と伝統文化・食・芸術についてグループワークと発表 これまでの授業で学んだことを振り返り、今後への展開について発表します。
第9回	内容 12/1 日本の芸術祭について 大地の芸術祭（新潟県）、国際芸術祭「あいち」（愛知県）、瀬戸内国際芸術祭（岡山県・香川県）の概要について学びます。
第10回	内容 12/8 海外の芸術祭について 歴史のあるヴェネチア・ビエンナーレ、カーネギー・インターナショナルについて学びます。
第11回	内容 12/15 日本の観光資源としての芸術について 日本の代表的な美術館・博物館と観光について学びます。
第12回	内容 12/22 世界の観光資源としての芸術について 世界の代表的な美術館・博物館と観光について学びます。
第13回	内容 1/5 日本の産業と観光の結びつき事例1 産業観光の概念と愛知県の産業観光地について学びます。
第14回	内容 1/12 日本の産業と観光の結びつき事例2 その他の地域の産業観光地について学びます。
第15回	内容 1/19 芸術祭・美術館・博物館・産業観光についてグループワークと発表、CR作成
第16回	内容 1/26 定期試験なし

年度	2025
講義コード	3310012401
講義名称	観光と地理
代表ナンバリングコード	OG11S7006
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	桜花学園大学 国際学部 国際学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 根尾 文彦	国際学部国際学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. 幅広い知識と教養を身につけ、グローバルな視点から地域・国際社会を理解する能力を身につけている。	○
2. グローバル社会における高度で実践的なコミュニケーション能力を身につけている。	
3. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力を身につけている。	◎
4. 国際社会の多岐にわたる問題について批判的思考ができ、論理的で創造的な発信ができ、主体的に行動できる能力を身につけている。	

授業概要と方法	本授業においては国際学部のディプロマポリシーにある「幅広い知識と教養を身につけ、グローバルな視点から地域・国際社会を理解する能力を身につけている」ことが望まれる。国内・海外の観光情報と地理的知識の基礎を学ぶことにより、次年度以降のより専門的な知識の修得を目指す。国内・海外の世界遺産について、人類共通の遺産として登録された意義を学ぶことにより、その地域の特性、貴重性を理解して今後の発展に繋げていきます。本授業は講義を主体として、毎回の授業後に課題レポートの提出が求められます。また、日本の世界遺産および海外の世界遺産について、各自で調査した内容を発表します(2回)
授業の到達目標	①国内の世界遺産の意義、特性、文化的背景などを理解している。(DP3) ②海外の世界遺産の意義、特性、文化的背景などを理解している。(DP3) ③各自で調査した世界遺産について資料をまとめて発表する(DP1)
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)	毎回の授業で学んだことの中で、特に関心のある事項について各自で更に深く調査してレポート提出する。世界遺産に関するメディア(テレビ、DVD、You Tubeなど)は数多く存在するので、関心を持って学ぶ。事前・事後学修として週に4時間程度の自主学習が求められる。
フィードバックの方法	毎回の課題レポート内で質問を受け付けて、次回の授業内でフィードバックします。
評価方法	授業への取組意欲30%、毎回の課題レポート20%、調査と発表20×2回=40%、CR10%
教科書	特になし、随時プリントを配布します。
参考図書	適宜授業内で案内します。
その他(学生へのアドバイス、連絡手段等)	研究室 7307号室 neo@ohkagakuen-u.ac.jp

授業計画表

	内容
第1回	4/10 オリエンテーション(シラバスの説明、世界遺産の概要・意義など) 世界遺産が誕生した経緯、意義などについて学びます。

第2回	<p>内容</p> <p>4/17 日本の世界遺産（知床）と地域の伝統文化および観光情報 日本の最北端にある世界遺産で、世界的にも希少な動植物が生息する地域である。世界遺産に登録されたことにより、より一層持続可能性のある環境学習に力を入れており、その状況についても学びます。</p>
第3回	<p>内容</p> <p>4/24 日本の世界遺産（平泉）と地域の伝統文化および観光情報 12世紀に約100年の間、陸奥の地にて藤原三代による栄華を誇った平泉文化。都であった京都にもひけをとらない文化が繁栄した、殆どが焼失しているが、唯一現存する金色堂の文化的価値は非常に高く、その周辺も含めた遺産について学びます。</p>
第4回	<p>内容</p> <p>5/8 日本の世界遺産（富士山）と地域の伝統文化および観光情報 その容姿から外国人からも人気のある富士山とその周辺は自然的価値だけでなく文化的価値も高く、その背景及び詳細について学びます。</p>
第5回	<p>内容</p> <p>5/15 日本の世界遺産（原爆ドームと厳島神社）と地域の伝統文化および観光情報 世界で唯一の被爆国である我が国の国民として、原爆ドームはその歴史と平和について世界に向けて発信すべき意義を持ち、必ず学ぶべき内容である。</p>
第6回	<p>内容</p> <p>5/22 日本の世界遺産（長崎と天草地方）と地域の伝統文化および観光情報 天草地方は江戸時代において隠れキリシタンの潜伏地域として、世界的にも貴重な遺産であり、その詳細について学びます。</p>
第7回	<p>内容</p> <p>5/29 日本の世界遺産（屋久島）と地域の伝統文化および観光情報 世界でも希少性の高い動植物が生息する屋久島。その自然の特異性とそこ地域でしか生息しない動物について学びます。</p>
第8回	<p>内容</p> <p>6/5 私の好きな日本の世界遺産の発表 1回目 日本の世界遺産の中で、授業で取り上げていないが関心のある遺産について各自で文献などで調べ、パワーポイントにて資料を作成して授業内にて発表します。発表時間は受講人数によって異なりますが、一人当たり5～10分の予定。</p>
第9回	<p>内容</p> <p>6/12 私の好きな日本の世界遺産の発表 2回目 日本の世界遺産の中で、授業で取り上げていないが関心のある遺産について各自で文献などで調べ、パワーポイントにて資料を作成して授業内にて発表します。発表時間は受講人数によって異なりますが、一人当たり5～10分の予定。</p>
第10回	<p>内容</p> <p>6/19 海外の世界遺産（中国：秦の始皇帝陵）と地域の伝統文化および観光情報 世界でも有数の世界遺産の保有国である中国。中でも歴史的価値も非常に高い秦の始皇帝陵と兵馬俑について、その高い文化的価値について学びます。</p>
第11回	<p>内容</p> <p>6/26 海外の世界遺産（カンボジア：アンコール遺跡群）と地域の伝統文化および観光情報 密林の中で発見されたアンコール遺跡群は東南アジアで最も重要な古代遺跡群といわれており、その文化的価値は非常に高い。アンコールは9世紀から15世紀にかけて繁栄したクメール王朝の首都であり、アンコールワットを中心に詳細に学びます。</p>
第12回	<p>内容</p> <p>7/3 海外の世界遺産（フランス：モンサンミッシェル）と地域の伝統文化および観光情報 世界最大の世界遺産の保有国であるフランス。その中でも日本人に最も人気があるのがモンサンミッシェルである。その歴史的背景と文化的価値について詳細に学びます。</p>

第13回	<p>内容</p> <p>7/10 海外の世界遺産（イタリア：フィレンツェ歴史地区）と地域の伝統文化および観光情報 「天井のない博物館」とも呼ばれるフィレンツェの街は町中に文化的、芸術的建造物及び作品が溢れている。ルネッサンス文明の開化した街について詳しく学びます。</p>
第14回	<p>内容</p> <p>7/17 海外の世界遺産（アメリカ：グランドキャニオン）と地域の伝統文化および観光情報 世界でもこの地域でしか見ることのできない大自然の宝庫であるグランドキャニオンと、グランドサークルと呼ばれるその周辺は絶景の連続であり、その詳細について学びます。</p>
第15回	<p>内容</p> <p>7/24 私の好きな海外の世界遺産の発表 1回目 海外の世界遺産の中で、授業で取り上げていないが関心のある遺産について各自で文献などで調べ、パワーポイントにて資料を作成して授業内にて発表します。 発表時間は受講人数によって異なりますが、一人当り5～10分の予定。</p>
第16回	<p>内容</p> <p>7/31 私の好きな海外の世界遺産の発表 2回目 海外の世界遺産の中で、授業で取り上げていないが関心のある遺産について各自で文献などで調べ、パワーポイントにて資料を作成して授業内にて発表します。 発表時間は受講人数によって異なりますが、一人当り5～10分の予定。</p>

桜花学園大学 国際学部 国際学科 専門教育科目	観光専攻	観光まちづくり論	まちづくりを観光の観点から見つめ、地域を活性化するための理論と地域創生の先進事例を具体的に学ぶ。超高齢社会に直面する我が国において、多くの地域が将来をデザインするために様々な取り組みを始めている。観光によるまちづくりは地域における持続可能な社会を作り上げるための一つの方策として捉えられている。観光は裾野が広い産業で、観光資源の多くが普段の生活に密着したものから成り立っている。その生活資源を観光の観点に立って活用するための工夫・知恵を学び、地域住民を中心としたまちづくり活動を学ぶ。
----------------------------------	------	----------	--

年度	2025
講義コード	3210010601
講義名称	観光とメディア
代表ナンバリングコード	OG51S7011
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	前期
対象学科	桜花学園大学 学芸学部 英語学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 根尾 文彦	国際学部国際学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力	
2. グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力	
3. 修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力	○
4. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力	◎

授業概要と方法	本授業は学芸学部のディプロマポリシーにある「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」を身につけることが望まれる。観光とメディアは密接な関係にあります。前半は新聞、雑誌、書籍、ガイドブックなどの活字メディア、テレビ、ラジオなどの放送メディア、そしてインスタグラム、You Tubeなどのオンラインメディアについて学びます。後半では各自で可能なメディアを使って観光振興、観光プログラムを実際に作成して授業内で発表（2回）します。本授業は講義と学生による主体的な研究・発表によって構成されます。
授業の到達目標	①活字メディアと観光の関連性を理解している。（DP4）②放送メディア、オンラインメディアと観光の関連性を理解している。（DP4）③行政などが発信する観光情報を理解している。（DP4）④自分で観光コンテンツを作成し発表することができる。（DP3）
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	観光に関する新聞、ニュース、テレビ番組やインターネット情報などを通じて様々な観光情報を収集する。 事前事後学修として週に4時間前後の自主学習が求められる。
フィードバックの方法	毎回の課題レポート内で質問を受け付けて、次回の授業内でフィードバックします。
評価方法	授業への取組意欲30%、観光ポスターの制作と発表20%、各自観光コンテンツの制作と発表40%、CR10%を総合的に評価します。
教科書	特になし、随時プリントを配布します。
参考図書	適宜授業内で案内します。
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	研究室 7307号室 neo@ohkagakuen-u.ac.jp

授業計画表

第1回	内容 4/10 オリエンテーション（シラバスの説明）、メディアの役割 現代社会におけるメディアの重要性と役割について学びます。
第2回	内容 4/17 観光とメディアの関係性 観光と各メディアの深い関連性について事例をもって紹介します。

第3回	<p>内容</p> <p>4/24 旅行パンフレット、ガイドブックなどの活字メディア 実際に旅行会社で作成されているパッケージツアー募集パンフレットや旅行情報誌（雑誌など）を比較しながら、その特色、活用方法などを比較検討します。</p>
第4回	<p>内容</p> <p>5/8 業界紙、業界新聞などの活字メディア 代表的な業界紙であるトラベルジャーナルを参照して、各自で関心のあるテーマから現状を把握して、今後のあり方について自分なりの考え方をまとめる。</p>
第5回	<p>内容</p> <p>5/15 観光ポスターの制作（グループワーク） 特定の地域を選択して、観光PRポスター、販売促進資料をパワーポイントで制作する。</p>
第6回	<p>内容</p> <p>5/22 観光ポスターの制作および発表（グループワーク） 作成した観光ポスター及び販売促進資料を発表する。受講人数にもよりますが、各グループ10～15分の発表とする。</p>
第7回	<p>内容</p> <p>5/29 テレビ番組、ラジオ番組などの放送メディア テレビやラジオなどのメディアを活用した観光プランの宣伝告知手段について学びます。</p>
第8回	<p>内容</p> <p>6/5 インスタグラム、You Tubeなどのオンラインメディア 最近特に影響力のあるSNSなどのオンラインメディアの現状と課題などについて学びます。</p>
第9回	<p>内容</p> <p>6/12 インターネットと観光産業 様々な観光産業が活用しているインターネットの状況について現状を把握し、今後の課題について学びます。</p>
第10回	<p>内容</p> <p>6/19 観光地が発信する観光情報 各観光地がPRのために駆使して発信している観光情報について事例を参考に学びます。</p>
第11回	<p>内容</p> <p>6/26 自治体などが発信する観光情報 各自治体が発信のために駆使して発信している観光情報について事例を参考に学びます。</p>
第12回	<p>内容</p> <p>7/3 外国メディアから見たニッポン インバウンドの観点からみた日本の特色と、外国人の動向傾向について学びます。</p>
第13回	<p>内容</p> <p>7/10 観光コンテンツの作り方 効果的な観光コンテンツの作成方法について事例を参考に学びます。</p>
第14回	<p>内容</p> <p>7/17 各自で観光コンテンツ制作、CR作成 キャンパスの近くにある観光コンテンツ（桶狭間古戦場、有松）について各自で動画作成する。</p>
第15回	<p>内容</p> <p>7/24 各自で作成した観光コンテンツの発表 発表は受講者人数にもよりますが、1人5～10分程度とする。</p>
第16回	<p>内容</p> <p>7/31 定期試験なし</p>

年度	2025
講義コード	3210010501
講義名称	観光とサブカルチャー
代表ナンバリングコード	OG52S7009
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
対象学科	桜花学園大学 学芸学部 英語学科
必須/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	◎ 根尾 文彦	国際学部国際学科

到達目標と関連する学科DP (◎：深い関連がある、○：関連がある)

1. グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力	◎
2. グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力	
3. 修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力	○
4. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力	

授業概要と方法	本授業は学芸学部のディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力」を身につけることを目的とする。現代社会には、我々の生活を彩るサブカルチャーがたくさん存在します。まずはサブカルチャーとは何かを学び、それらを地域における観光産業にどのように生かすことが出来るのかを各自が考えます。本授業は講義と学生による観光プランの作成及び発表（2回）を中心とします。また講義授業については課題レポートの提出が求められます。
授業の到達目標	①日本のサブカルチャーの歴史、背景などを理解している。（DP1） ②サブカルチャーと観光の結びつきを理解できている。（DP1）③サブカルチャーを素材とした観光プランを作成する。（DP1）④作成した観光プランを効果的にプレゼンテーションする。（DP3）
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）	毎回の授業で学んだことを更に深く調べてレポート提出が求められます。 サブカルチャーに関する情報は日々発信され、新聞やニュース、インターネットなどを通じて、常に把握するようにしましょう。 事前事後学修として週に4時間前後の自主学習が求められます。
フィードバックの方法	毎回の課題レポート内で質問を受け付けて、次回の授業内でフィードバックします。
評価方法	授業への取組意欲30%、観光プラン1回目の内容と発表20%、観光プラン2回目の内容と発表20%、課題レポート20%、CR10%を総合的に評価する。
教科書	なし、随時プリントを配布します。
参考図書	適宜案内します。
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）	研究室 7307号室 neo@ohkagakuen-u.ac.jp

授業計画表

第1回	内容 9/29 オリエンテーション（シラバスの説明）、サブカルチャーの定義と概要
第2回	内容 10/6 日本におけるサブカルチャーの変遷 江戸時代から2010年代までの我が国のサブカルチャー（またはポップカルチャー）の歴史の変遷について、その当時の事例を参照しながら学びます。

第3回	<p>内容</p> <p>10/13 日本のマンガの歴史、アニメの歴史 世界でも人気の高いマンガ、アニメの歴史についてその時代に人気のあった事例を参照に学びます。</p>
第4回	<p>内容</p> <p>10/20 サブカルチャーと日本の政策、現代の若者と社会 「クールジャパン」として日本のサブカルチャー文化を世界に発信している我が国の対外政策について学びます。</p>
第5回	<p>内容</p> <p>10/27 コンテンツツーリズム サブカルチャーのコンテンツを素材とした地域づくりの事例を紹介します。</p>
第6回	<p>内容</p> <p>11/3 日本のアニメ（DVD）の視聴 人気の高いアニメ（ジブリ作品など）を実際に視聴することにより、文化的・芸術的価値の高さを理解する。</p>
第7回	<p>内容</p> <p>11/17 私たちが考えたアニメ聖地巡礼観光プラン制作 各自でマンガ、アニメを素材とした聖地巡礼観光プラン（日帰り）を制作します。</p>
第8回	<p>内容</p> <p>11/24 私たちが考えた聖地巡礼ツアー発表 各自で制作した聖地巡礼ツアーを発表します。受講者人数にもよりますが、発表時間は1人10分程度。</p>
第9回	<p>内容</p> <p>12/1 日本のアイドルの文化史 日本固有の文化的発展を遂げたアイドル文化の歴史と特色を学びます。</p>
第10回	<p>内容</p> <p>12/8 コスプレツーリズム 我が国で発展を遂げたコスプレ文化について、その背景と歴史を学びます。</p>
第11回	<p>内容</p> <p>12/15 地域の賑わいづくりとサブカルチャー サブカルチャーを素材としたイベントなどの事例を紹介し、地域づくりについて学びます。</p>
第12回	<p>内容</p> <p>12/22 ゲームと観光 我が国においても大きく発展したゲーム文化について、現状と今後のあり方について学びます。</p>
第13回	<p>内容</p> <p>1/5 ゲームを用いた観光プランの制作 ゲームを素材とした観光プラン（1泊2日）を作成します。</p>
第14回	<p>内容</p> <p>1/19 ゲームを用いた観光プランの発表 各自で作成した観光プランを発表します。</p>
第15回	<p>内容</p> <p>1/24（土） CR作成、まとめ</p>
第16回	<p>内容</p> <p>1/26 定期試験なし</p>